



航空自衛隊の概要

2023年度版



航空幕僚監部



航空自衛隊 ～空と宇宙を守る唯一の組織～

航空自衛隊が「守る」領域



領土・領海・**領空**



宇宙・サイバー・電磁波

航空防衛力を構成する主な部隊



戦闘機部隊



航空警戒管制部隊



地对空誘導弾部隊



宇宙領域専門部隊



航空輸送部隊



航空救難部隊

日米同盟



各国との防衛協力・交流



隊員の活躍





内容

I 航空防衛力の意義、航空自衛隊の任務等

II 我が国周辺の安全保障環境

III 航空自衛隊の将来体制の方向性

IV ピックス





I 航空防衛力の意義、航空自衛隊の任務等



1 航空自衛隊の任務と行動

2 航空防衛力の特徴

3 航空自衛隊の編成

4 日米同盟強化のための取組

5 防衛協力・交流





1 航空自衛隊の任務と行動



自衛隊法 第3条【自衛隊の任務】抜粋

- 我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つため、我が国を防衛
- 必要に応じ、公共の秩序維持等
- 航空自衛隊は主として空において行動



対領空侵犯措置

自衛隊法 第6章【自衛隊の行動】抜粋

- 防衛出動(第76条)
- 国民保護等派遣(第77条の4)
- 治安出動(第78条、第81条)
- 自衛隊の施設等の警護出動(第81条の2)
- 海上における警備行動(第82条)
- 海賊対処行動(第82条の2)
- 弾道ミサイル等に対する破壊措置(第82条の3)
- 災害派遣(第83条)、地震防災派遣(第83条の2)
- 原子力災害派遣(第83条の3)
- 領空侵犯に対する措置(第84条)
- 在外邦人等の保護措置、輸送(第84条の3、第84条の4)
- 国際緊急援助活動、国際平和協力業務等(第84条の5)



弾道ミサイル等に対する破壊措置



災害派遣

自衛隊法 第8章【雑則】抜粋

- 運動競技会に対する協力(第100条の3)
- 国賓等の輸送(第100条の5)



在外邦人等の輸送、国際緊急援助活動



1 航空自衛隊の任務と行動



航空自衛隊は、平時から有事まで、**空と宇宙を守る唯一の存在**

陸

海

空

【有事】

防衛力

陸上自衛隊



自衛官:約15.1万人

海上自衛隊



自衛官:約4.5万人
主要艦艇:約140隻

航空自衛隊



自衛官:約4.7万人
作戦用航空機:※約380機
うち戦闘機:約320機

【平時】

警察力

警察



警察官等:約26万人

海上保安庁



人員:約1.4万人
船舶:450隻

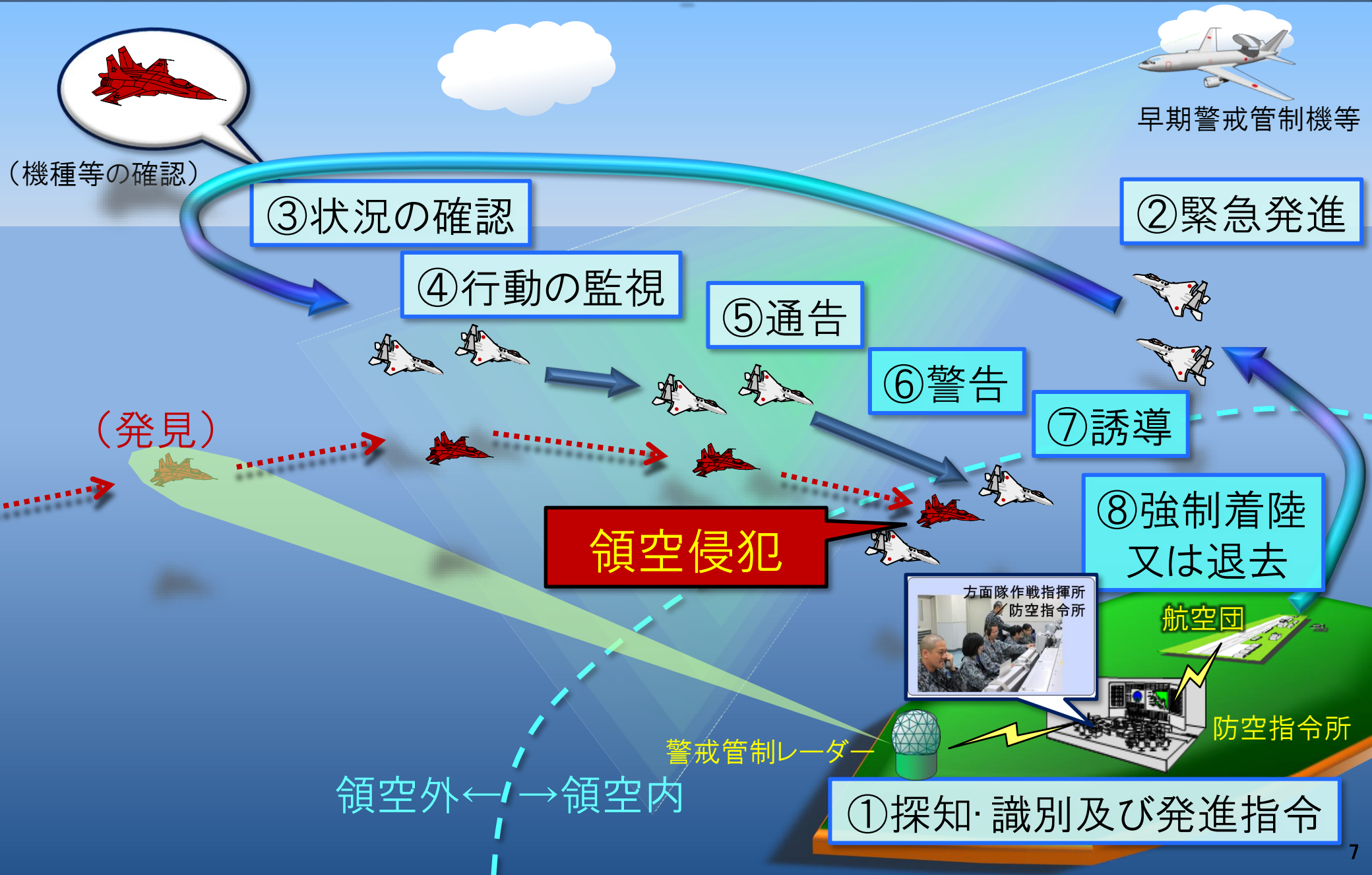
警察機関では対応が困難との事情から、その実効性等も踏まえ、**空自が領空侵犯機に対処**

※戦闘機及び輸送機等

➤航空自衛隊は、**平時・有事問わず航空・宇宙領域における日本代表**



領空侵犯に対する措置 (隊法84条)



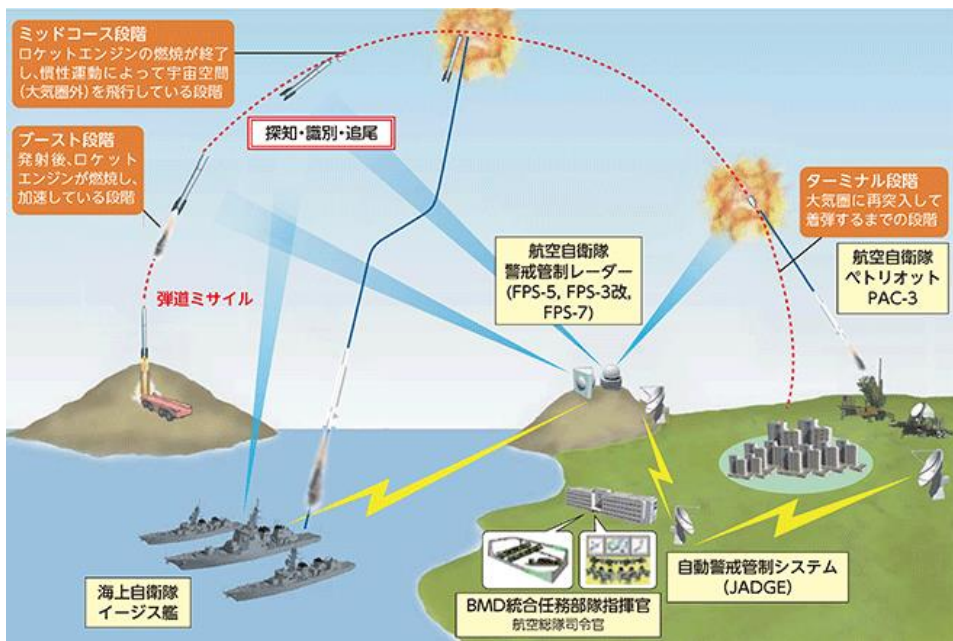


弾道ミサイル等に対する破壊措置(隊法82条の3)



航空総隊司令官を指揮官とするBMD統合任務部隊を組織し、自動警戒管制システムを通じた一元的な指揮のもと、効果的に対処するための各種態勢を保持

BMD 整備構想・運用構想

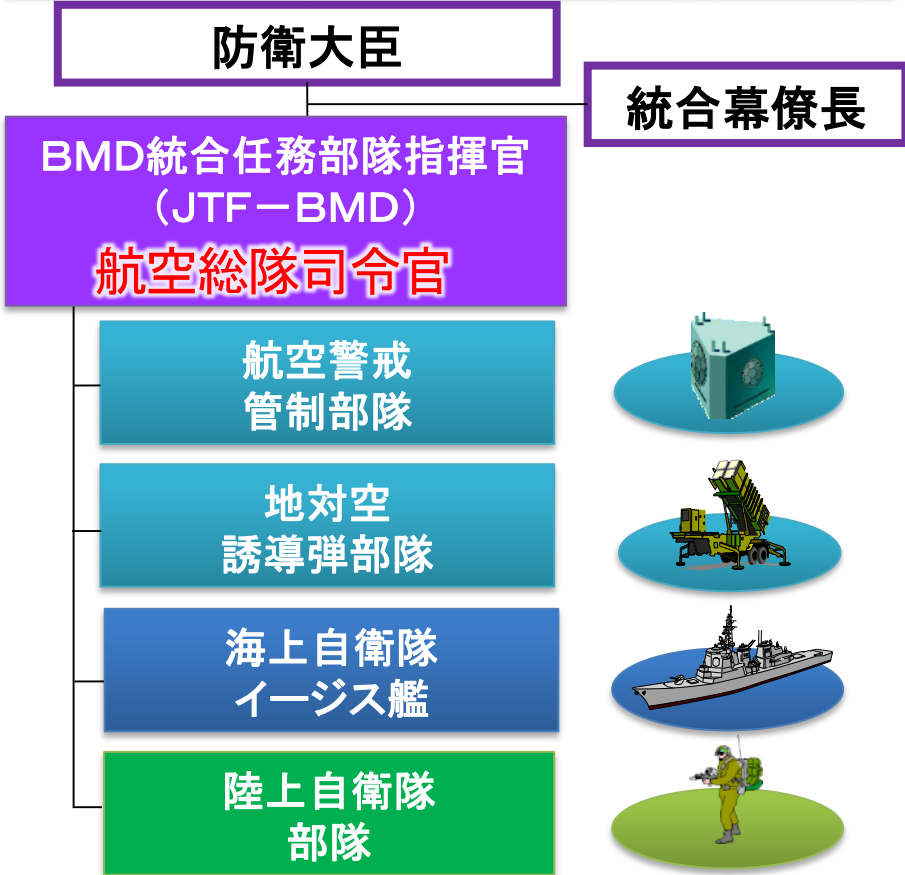


海自イージス艦



パトリオット PAC-3

JTF-BMD の編成(例)



JTF (Joint Task Force): 統合任務部隊
BMD (Ballistic Missile Defense): 弾道ミサイル防衛



災害派遣(第83条)



北海道知床沖における観光船沈没事故に係る災害派遣(2022年4月～5月)



活動内容	活動規模(空自)			
搜索活動、レーダー覆域補完、通信中継等	U-125A	39機	E-2C	4機
	UH-60J	27機	E-767	3機

青森県十和田市における山林火災(2022年5月)



活動内容	活動規模(空自)		
ヘリコプターによる放水	航空機	CH-47J	2機
	放水量	約65t	

急患空輸(2022年度)



活動内容	活動規模(空自)	
患者輸送	航空機(UH-60J、U-125A、C-2、C-130H)	延べ 29回

長崎県男女群島西方沖における貨物船の救助に係る災害派遣(2023年1月)



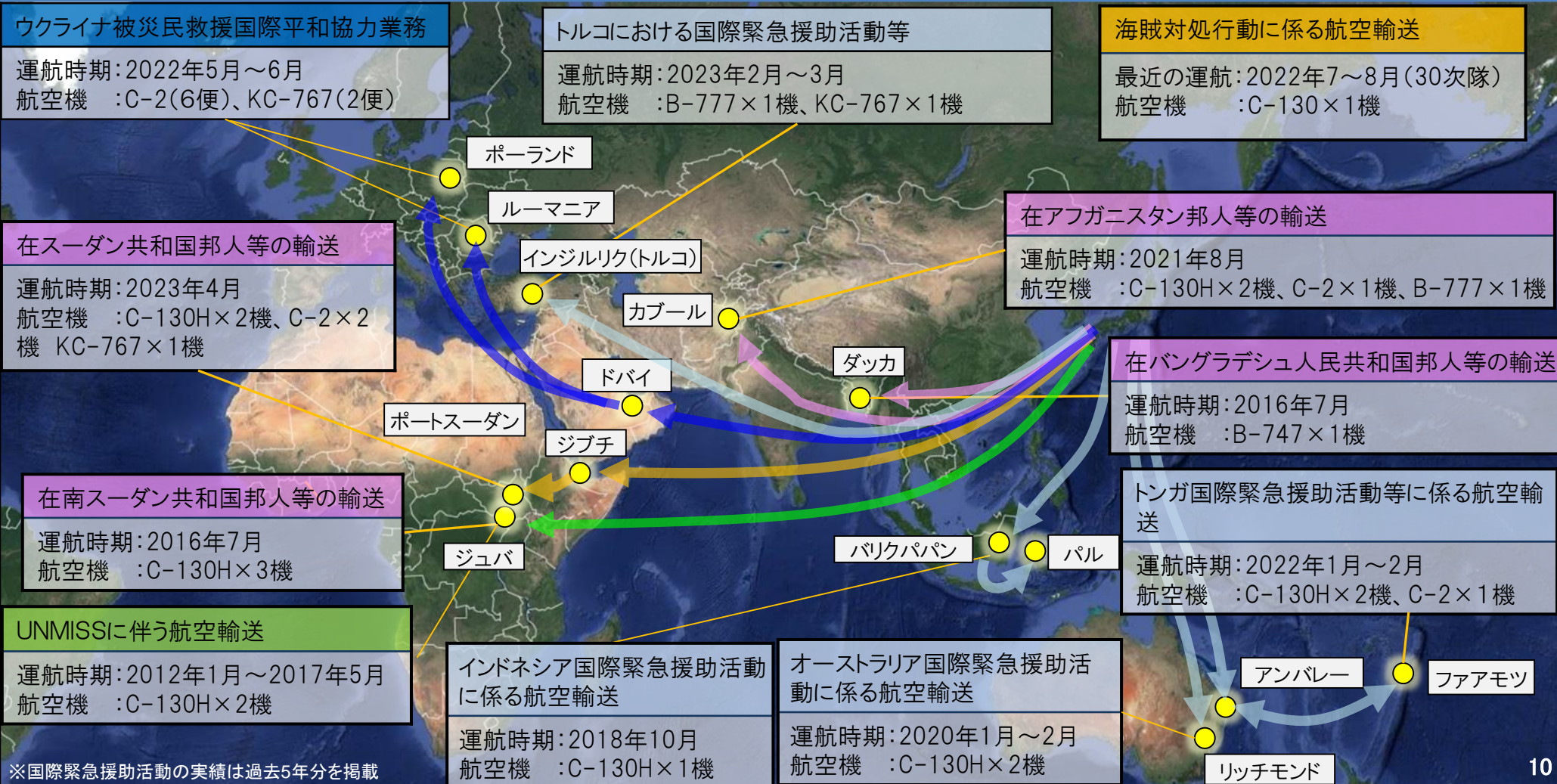
活動内容	活動規模(空自)			
搜索救助活動	U-125A	5機	UH-60J	4機



在外邦人等の輸送、国際緊急援助活動等(第84条の4等) (1/2)



- 20年以上にわたり、航空輸送任務を中心に数々の国際緊急援助活動、在外邦人等の輸送、国際平和協力活動等を実施
- 海賊対処行動に係るジブチへの所要の物資等の航空輸送を実施
- 2022年ロシアによるウクライナ侵略を受け、UNHCRの人道支援物資をドバイからポーランド及びルーマニアへ輸送
- 2022年トルコの地震に際し、国際緊急援助隊・医療チームに必要な機材等及びNATOと連携したトルコへの支援物資輸送を実施
- 2023年スーダンにおける情勢悪化に際し、C-2×1機によりポートスーダンからジブチまで在外邦人等の輸送を実施



※国際緊急援助活動の実績は過去5年分を掲載



在外邦人等の輸送、国際緊急援助活動等(第84条の4等)(2/2)



- ▶2023年2月に発生したトルコにおける地震に際しては、2月にB-777×1機が現地で活動する医療チームに必要な機材等をトルコ(インジルリク空港)まで輸送
- ▶3月には、トルコ及びNATO(北大西洋条約機構)からの協力要請を踏まえ、KC-767×1機によりパキスタンにあるテント等の緊急援助物資をトルコ(インジルリク空港)まで輸送

本邦を出発する隊員



インジルリク空港でB-777から医療資機材等を降ろす様子



インジルリク空港に着陸するKC-767



インジルリク空港でKC-767からテント等の物資を降ろす様子





「政府専用機」の運航実績(国賓等の輸送 (第100条の5)等)



○1993年以降、特別輸送機(B-747)による国賓等の輸送を実施

○2019年4月、B-777へ機種更新

【運航実績】

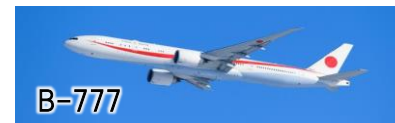
○任務運航は、通算で379回 注:2023年4月15日現在

(B-747:349回、B-777:30回)

○101カ国(280都市)を訪問



B-747



B-777





航空防衛力の意義

航空機、レーダー、ミサイル等を主体とした、国家が保有する航空に関する防衛力



戦闘機部隊



航空警戒管制部隊



地对空誘導弾部隊



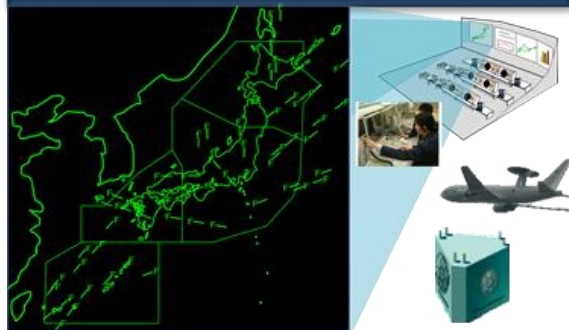
2 航空防衛力の特徴(2/2)



高い即応性・機動性



優れた監視能力



天象・気象の影響



高い柔軟性・多様性



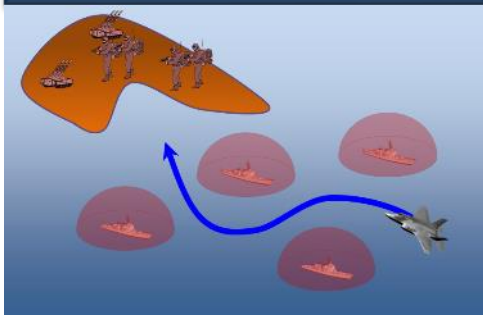
優れた指揮・統制・通信能力



地上では脆弱



高い突破力・生存性



精密な対処能力



防衛力造成に長期間

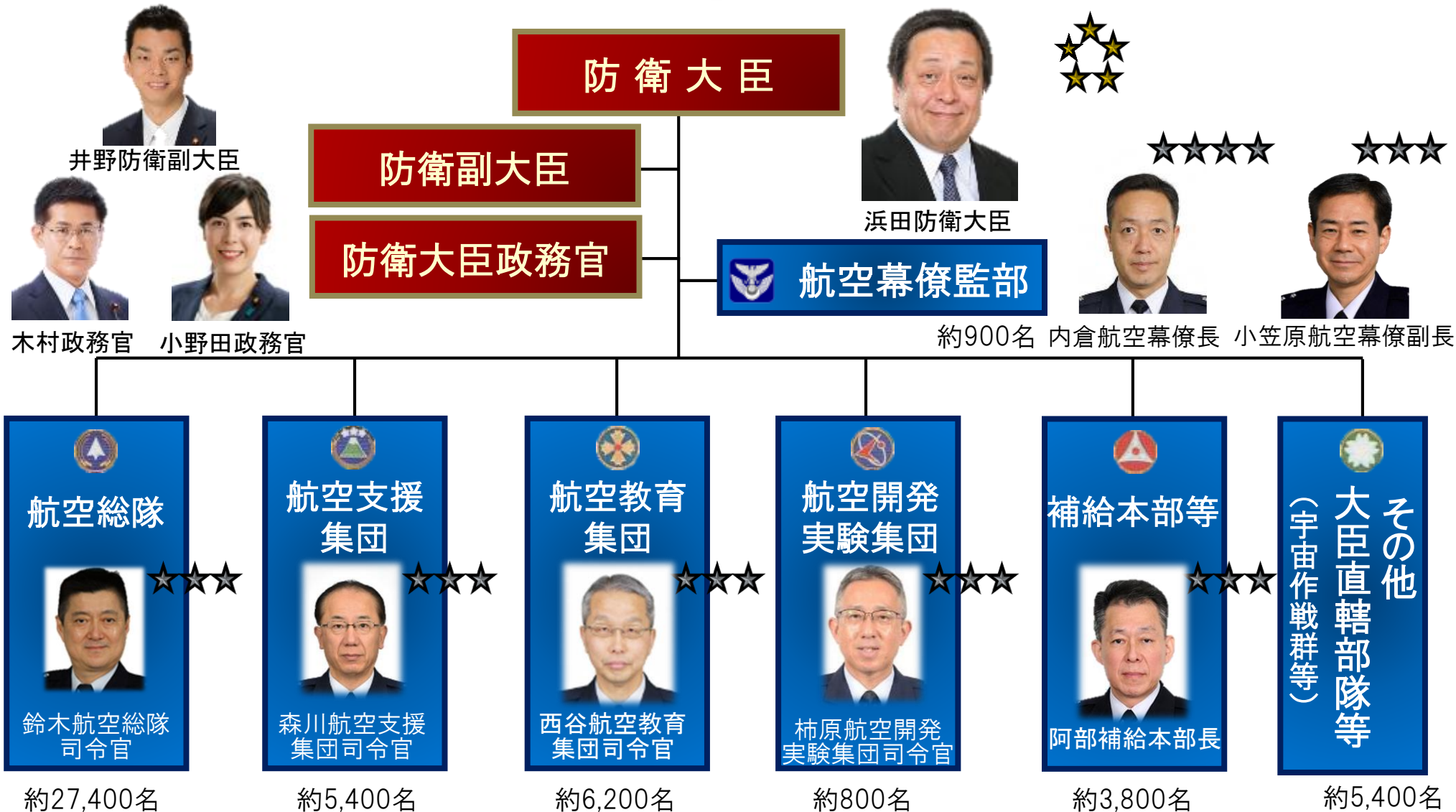
装備品等取得

人材育成



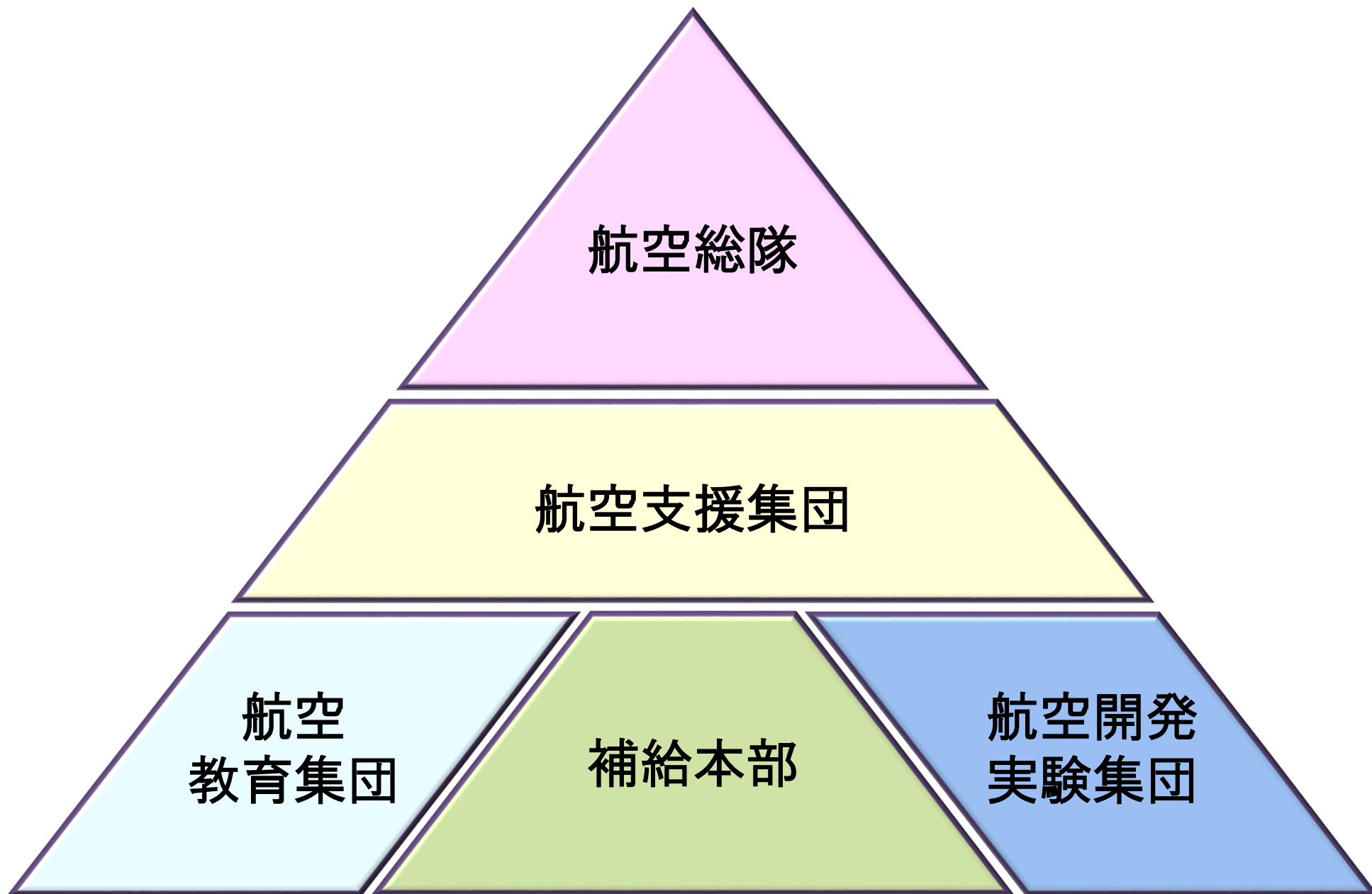


3 航空自衛隊の編成



航空自衛隊定員：約50,000名(うち事務官等約2,900名)

注：2022年度末定員、四捨五入により符合しない場合あり。





3 航空自衛隊の編成(航空総隊 1/3)



戦闘機部隊: 12個飛行隊
戦闘機数: 約260機

F-35 F-15 F-2

航空警戒管制部隊: 28個レーダーサイト
1個警戒航空団(3個飛行隊)

- : SOC/DC
- : 警戒管制レーダー
- : 警戒管制レーダー(BMD対応)
- : 移動警戒隊(TPS-102)
- : AWACS
- : E-2C ● : E-2D



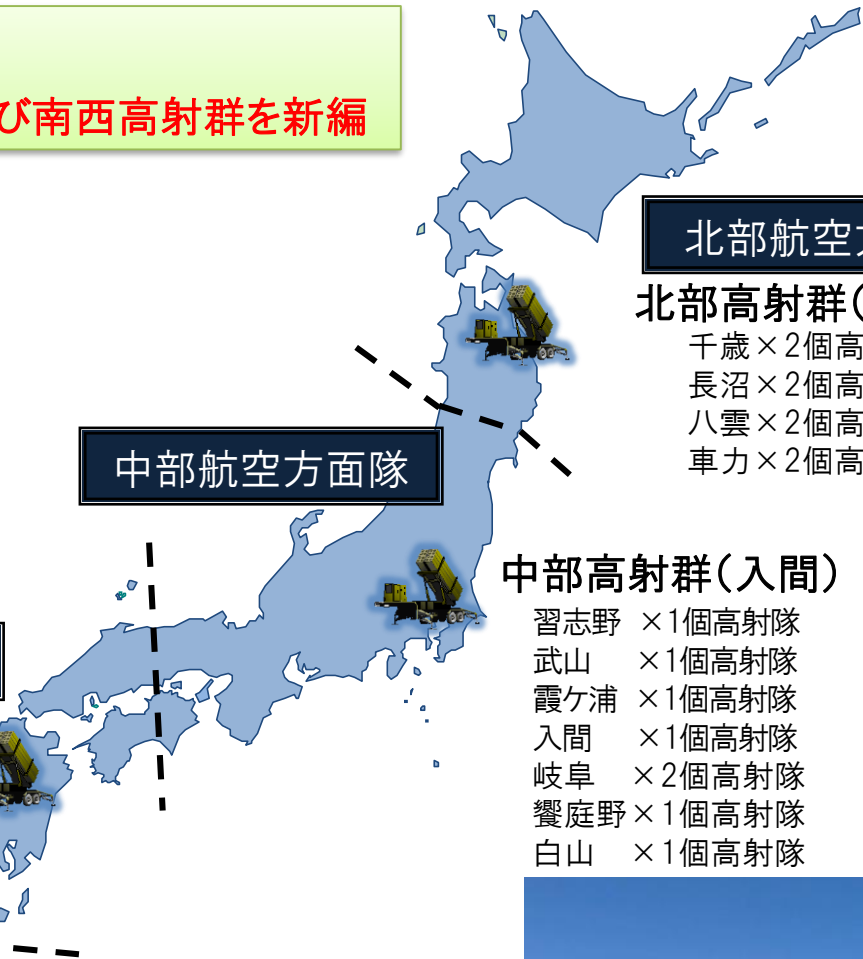
3 航空自衛隊の編成(航空総隊 2/3)



2023年3月
高射部隊の効率的な運用を行うため、
北部高射群、中部高射群、西部高射群及び南西高射群を新編



ミサイル発射の状況



北部航空方面隊

北部高射群(三沢)

- 千歳 × 2個高射隊
- 長沼 × 2個高射隊
- 八雲 × 2個高射隊
- 車力 × 2個高射隊

中部航空方面隊

中部高射群(入間)

- 習志野 × 1個高射隊
- 武山 × 1個高射隊
- 霞ヶ浦 × 1個高射隊
- 入間 × 1個高射隊
- 岐阜 × 2個高射隊
- 饗庭野 × 1個高射隊
- 白山 × 1個高射隊

西部航空方面隊

西部高射群(春日)

- 芦屋 × 2個高射隊
- 築城 × 1個高射隊
- 高良台 × 1個高射隊

南西高射群(那覇)

- 那覇 × 1個高射隊
- 知念 × 2個高射隊
- 恩納 × 1個高射隊

南西航空方面隊



器材展開の状況





3 航空自衛隊の編成(航空総隊 3/3)



航空救難部隊: 10個救難隊



ヘリコプター空輸部隊: 4個飛行隊





3 航空自衛隊の編成(航空支援集団 1/3)



航空支援集団司令官

航空支援集団司令部(府中)

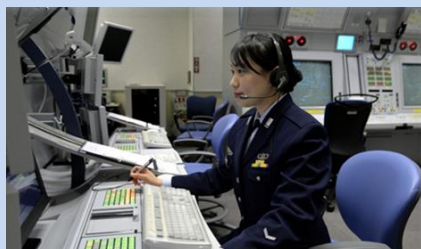
輸送航空隊(小牧他)

- ・空中輸送業務等
- ・陸自空挺部隊協力
- ・操縦者等及び整備員に対する教育業務



航空保安管制群(府中他)

- ・航空交通管制業務
- ・飛行管理業務
- ・飛行情報業務



航空気象群(府中他)

- ・気象予報業務
- ・気象観測業務
- ・気象情報業務



飛行点検隊(入間)

- ・航空保安施設及び航空管制施設の飛行点検業務



特別航空輸送隊(千歳)

- ・特別輸送機(B-777)をもってする主として国賓等の輸送業務



航空機動衛生隊(小牧)

- ・重症患者に対する機上医療等
- ・機上医療等に必要の調査研究
- ・救急に関する識能の部隊等に対する普及教育





3 航空自衛隊の編成(航空支援集団 2/3) 航空輸送部隊、飛行点検部隊



B-777



C-2



KC-46A



KC-767



C-130H



C-1



U-125



U-680A

凡例

- 航空輸送部隊
空中給油・輸送部隊
- 飛行点検部隊
- 特別航空輸送部隊

- 航空輸送部隊 : 3個飛行隊
- 空中給油・輸送部隊 : 2個飛行隊
- 特別航空輸送部隊 : 1個飛行隊
- 飛行点検部隊 : 1個飛行隊

(2023年3月末時点)



航空支援集団(司令部:府中)

- 第1輸送航空隊(小牧)
- 第2輸送航空隊(入間)
- 第3輸送航空隊(美保)
- 航空保安管制群(府中)
- 航空気象群(府中)
- 飛行点検隊(入間)
- 特別航空輸送隊(千歳)
- 航空機動衛生隊(小牧)

管制隊 (17個管制隊)



気象隊 (20個気象隊)



航空機動衛生隊





3 航空自衛隊の編成(航空教育集団)



注：破線は、隷属関係はないが校務の掌理については航空教育集団司令官の指揮監督を受けることを示す。



3 航空自衛隊の編成(航空開発実験集団)

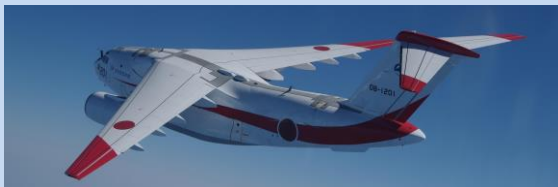


航空開発実験集団司令官

航空開発実験集団司令部(府中)

飛行開発実験団(岐阜)

- ・航空装備品等の試験及び評価並びに基礎的運用研究
- ・防衛装備庁に対する協力
- ・防衛装備庁の依頼に基づく領収のための飛行
- ・試験飛行操縦士に対する教育訓練



電子開発実験群(府中)

- ・地上通信電子器材等の試験及び評価並びに基礎的運用研究
- ・防衛装備庁に対する協力
- ・電波環境及び通信の品質に関する技術調査



航空医学実験隊(入間)

- ・航空医学及び心理学上の各種調査研究並びに実用試験
- ・航空身体検査及び航空生理訓練
- ・他自衛隊、防衛装備庁に対する協力





3 航空自衛隊の編成(補給本部等)



補給本部長

補給本部(十条)

・各補給処の業務に係る
企画、調整及び補給処の
管理

第2補給処(岐阜)

- ・航空機の保管、整備
- ・航空機の機体用部品、エンジンの調達、保管、補給、整備及びこれらに関する調査研究



第3補給処(入間)

- ・通信電子器材、写真器材、気象器材の調達、保管、補給、整備及びこれらに関する調査研究



第4補給処(入間)

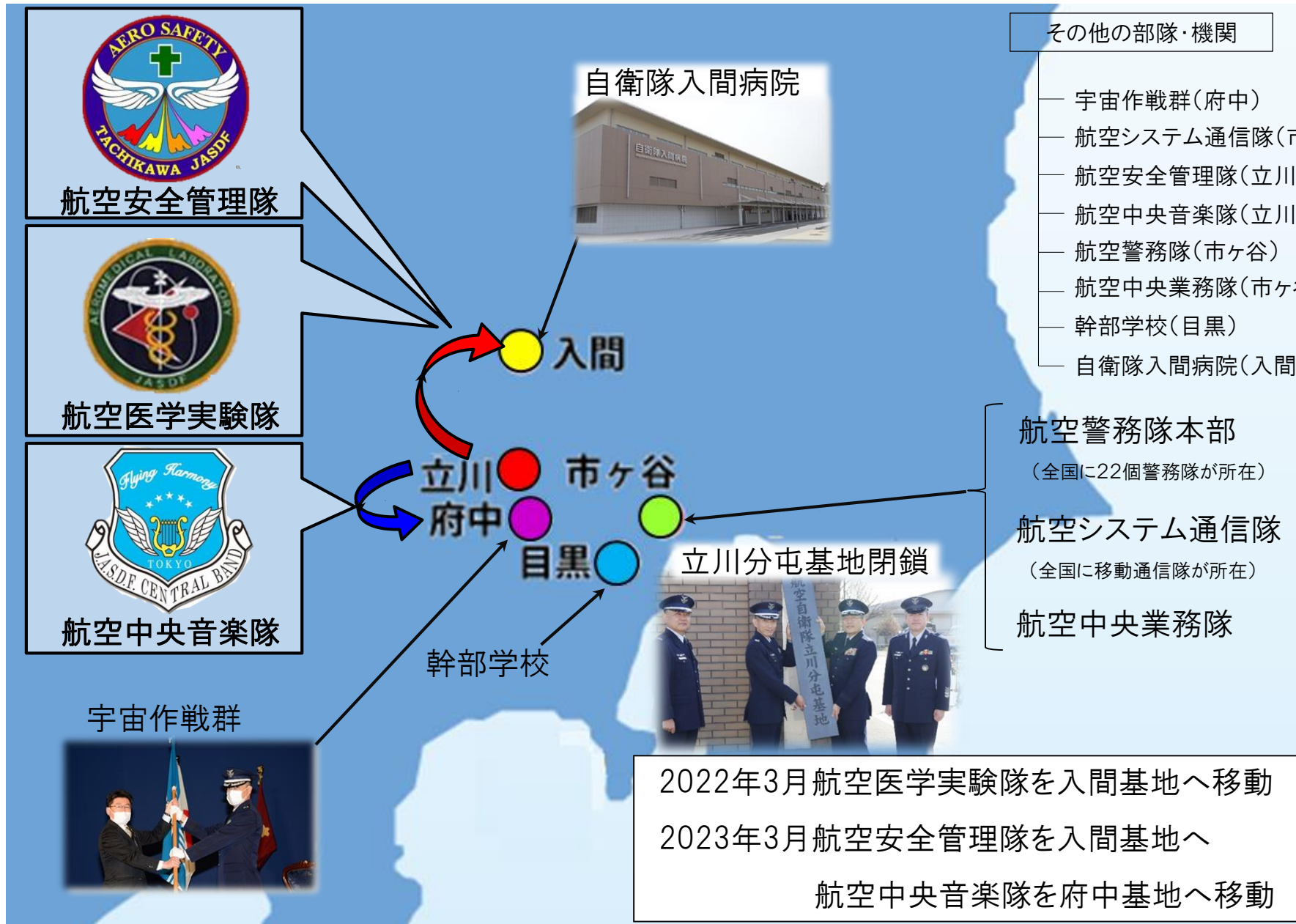
- ・火器、弾薬、標的、曳航器材の調達、保管、補給、整備及びこれらに関する調査研究
- ・需品、車両、航空機の支援器材、化学器材、施設器材の調達、保管、補給、整備及びこれらに関する調査研究



注：破線は、補給本部長の指揮監督を受けることを示す。



3 航空自衛隊の編成(その他の部隊・機関)





4 日米同盟強化のための取組



- **日米安保体制を中核とする日米同盟**は、我が国のみならず、インド太平洋地域、さらには国際社会の平和と安定及び繁栄に大きな役割を果たしている。
- 日米同盟の**抑止力・対処力を強化**するべく、平素から日米の**相互理解**と**意思疎通**を深めるとともに、相互運用性等を向上させるため、**各職種及び各レベルでの協議、共同訓練等を実施**

高官レベル



現場レベル



日米防衛相会談



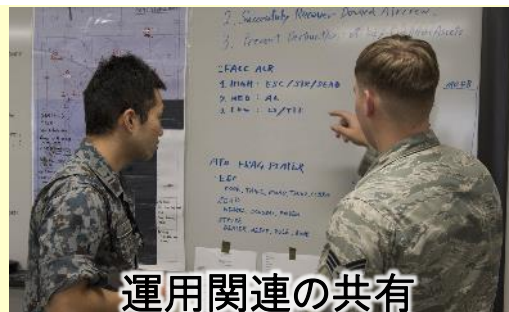
米空軍参謀総長との懇談



米宇宙軍作戦本部作戦次長との懇談



総隊司令部(横田基地)



運用関連の共有



グローバル・センチネル演習
(SSA多国間机上演習)



レッド・フラッグ・アラスカ



コープ・ノース



日米共同訓練



5 防衛協力・交流(1/7)



「自由で開かれたインド太平洋」の維持・強化に寄与するため、**二国間**及び**多国間**の枠組みを活用し、**ハイレベル交流**から**共同訓練**に至る様々な**防衛協力・交流**を推進

ハイレベル交流



部隊間交流・実務者交流



共同訓練

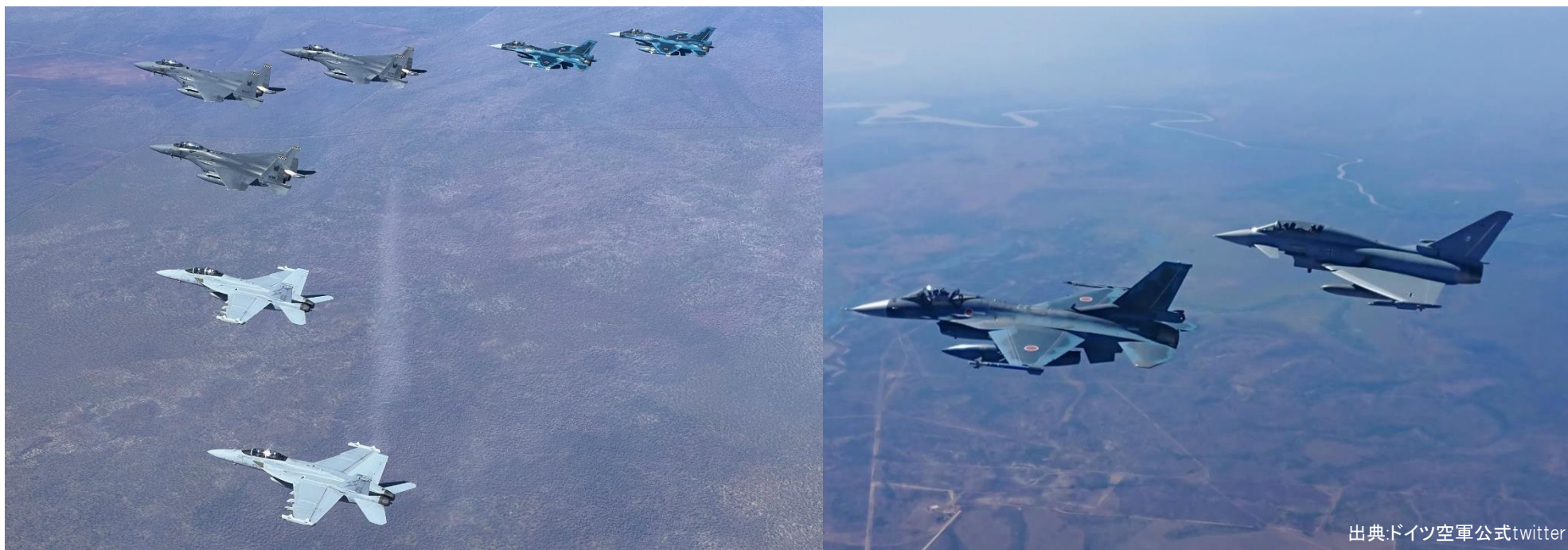




5 防衛協力・交流(2/7)



ピッチ・ブラック22(2022年8月)



- 豪空軍が実施する多国間訓練に参加
- 実戦的環境において豪空軍、米軍その他参加国の空軍と共同訓練を実施
- 米国以外への空自戦闘機の派遣は初



5 防衛協力・交流(3/7)



日独共同訓練(2022年9月)



- 百里基地において、空自と独空軍が国内での初の共同訓練を実施
- 展開経路上で編隊航法訓練を実施



5 防衛協力・交流(4/7)



空自F-15のフィリピン派遣(部隊間交流)(2022年11月)



- 戦後初となる東南アジア地域への戦闘機派遣
- フィリピン空軍との部隊間交流を目的として、新田原基地のF-15戦闘機2機を派遣し、フィリピン空軍部隊との専門家交流等を実施



5 防衛協力・交流(5/7)



日印戦闘機共同訓練(VEER GUARDIAN)(2023年1月)



➤ 百里基地において空自とインド空軍が初となる戦闘機共同訓練を実施し、日印空軍種間の相互理解及び防衛協力を強化



5 防衛協力・交流(6/7)



日米豪共同ISR訓練(2023年3月)



- 海上自衛隊、米空軍及び豪空軍と初のISR(情報収集、警戒監視、偵察)に関する共同訓練を実施し、日米豪の部隊間の相互運用性の強化、相互理解の促進及び防衛協力の深化に寄与
- 岩国基地においては、部隊間交流を実施



5 防衛協力・交流(7/7)



- ASEAN各国等の能力向上に資する能力構築支援等を実施
- 国際航空法、航空気象、航空医学、飛行安全、航空救難、人道支援・災害救援及びサイバーセキュリティの7分野
- 日ASEAN防衛協力の指針であるビエンチャン・ビジョン2.0の下、日ASEAN空軍種間の信頼醸成を目的とした招へい事業「プロフェッショナル・エアマンシップ・プログラム」を実施

 スリランカ

- ・ 航空救難



セミナー会場
(スリランカ空軍司令部等)



セミナー会場
(防衛省)



セミナー会場
(入間基地)

➤ 2021年5月はオンラインで実施

 ベトナム

- ・ 航空救難
- ・ サイバーセキュリティ
- ・ 飛行安全
- ・ 国際航空法
- ・ 航空医学



 タイ

- ・ 飛行安全
- ・ 国際航空法



 ASEAN・HA/DR





部隊研修(小牧基地)



セミナーの様子



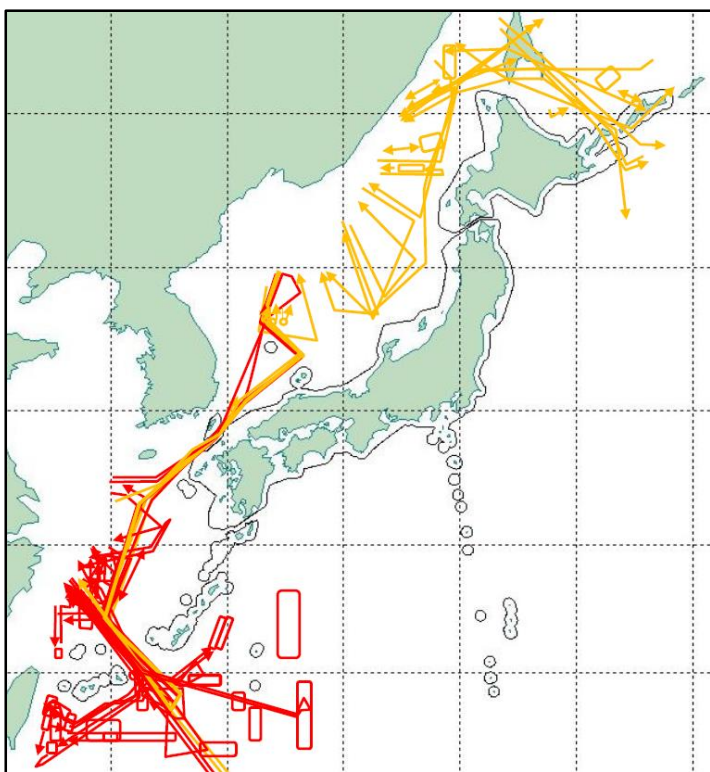
Ⅱ 我が国周辺の安全保障環境



1 現在の安全保障環境の特徴

2 我が国周辺の「空」の状況

【緊急発進の対象となった飛行パターン例(2022年度)】



→ : 中国機 → : ロシア機



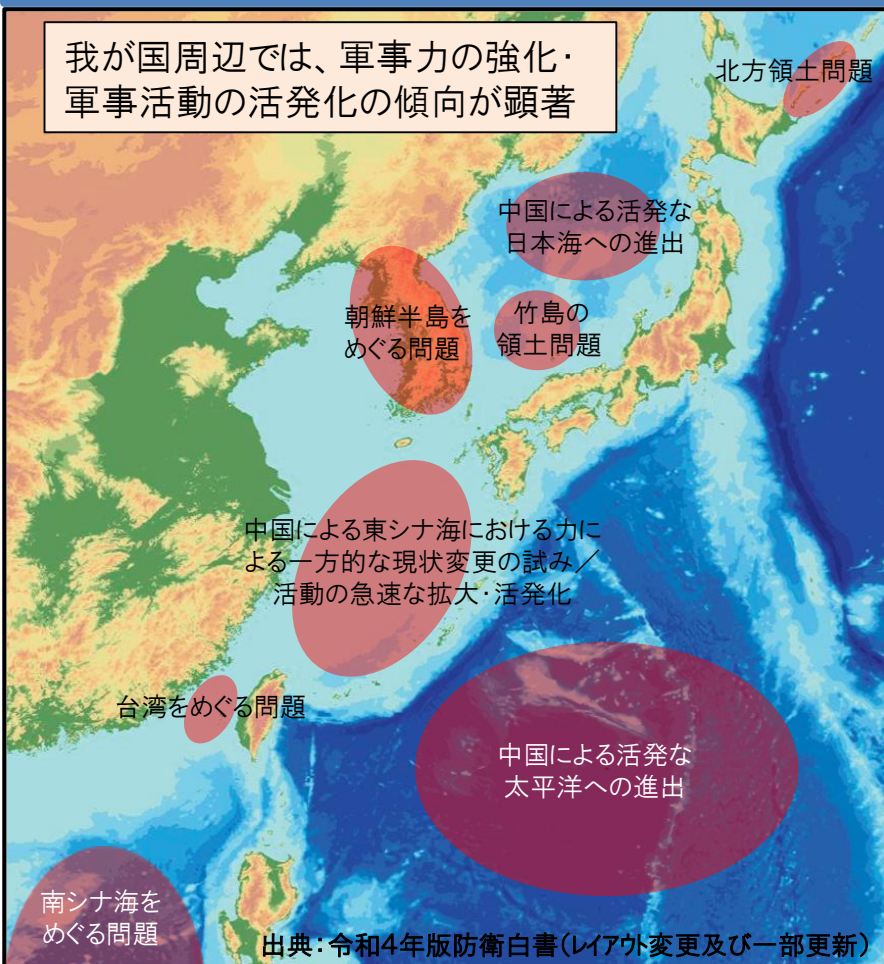


1 現在の安全保障環境の特徴(1/2)



「インド太平洋地域は、安全保障上の課題が多い地域」

- 核兵器を含む大規模な軍事力を有し、普遍的価値やそれに基づく政治・経済体制を共有しない国家や地域が複数存在
- 歴史的な経緯を背景とする外交関係等が複雑に絡み合う地域
- 東シナ海、南シナ海等における領域に関する一方的な現状変更及びその試み、海賊、テロ、大量破壊兵器の拡散、自然災害等の様々な種類と烈度の脅威や課題が存在



ロシアは活発な軍事活動を継続

中露共同飛行



新型の装備を極東にも配備



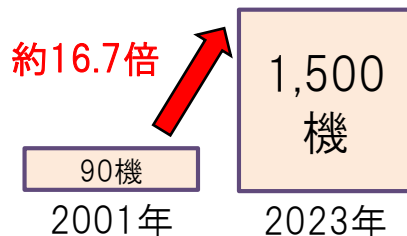
北朝鮮の核・ミサイル開発



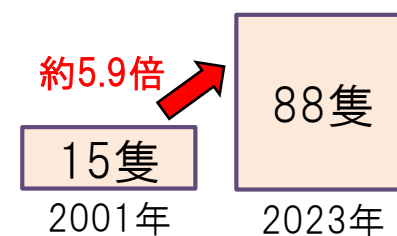
- ・ 2006年に初めて核実験強行。以降、計6回の核実験
- ・ 長射程化など、ミサイル技術を高度化
- ・ 2017年に核武力の完成を主張
- ・ 2021年に核・弾道ミサイル開発の継続を表明
- ・ 2022年以降に新型ICBM級ミサイルを発射

中国による軍事力の広範かつ急速な変化

第4・5世代戦闘機



近代的駆逐艦・フリゲート





1 現在の安全保障環境の特徴(2/2)



- 科学技術の急速な進展が安全保障のあり方を根本的に変化させ、各国はゲーム・チェンジャーとなり得る先端技術を開発し、従来の軍隊の構造や戦い方が根本的に変化
- 先端技術をめぐる主導権争いなど経済分野にまで安全保障分野が拡大
- 各国は、軍事的優位を手にするために、特に、宇宙・サイバー・電磁波領域における能力の強化を進めている。
- これらの領域の安定的利用が妨げられると、民生を含む国家・国民全体の安全に重大な影響

ロシア 極超音速滑空兵器/極超音速巡航ミサイル



ロシア 電子戦装備品「Leer-3」



中国 攻撃型ステルス無人機GJ-11



中国 DF-17準中距離弾道ミサイル



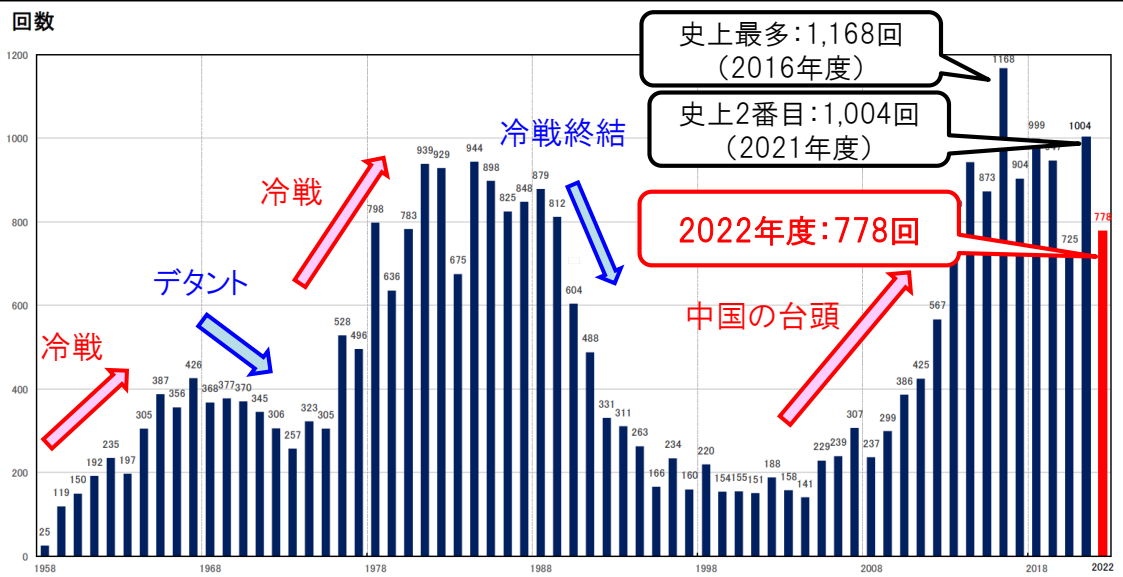


2 我が国周辺の「空」の状況(1/6): 緊急発進



- 2022年度の緊急発進回数は**778回**
- 2013年度以降、年度全体の緊急発進回数は700回を超える高い水準で推移

年度緊急発進回数の推移



ロシア機

爆撃機等



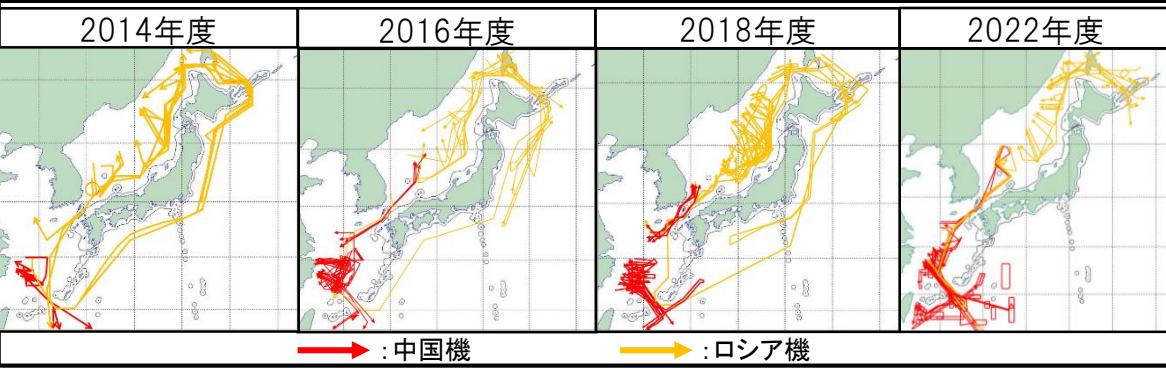
(2020年8月19日撮影)

情報収集機



(2020年6月10日撮影)

中国機とロシア機の活動範囲、活動量の推移



中国機

戦闘機



(2017年12月18日撮影)

情報収集機



(2020年6月22日撮影)

無人機



(2018年4月10日撮影)

爆撃機



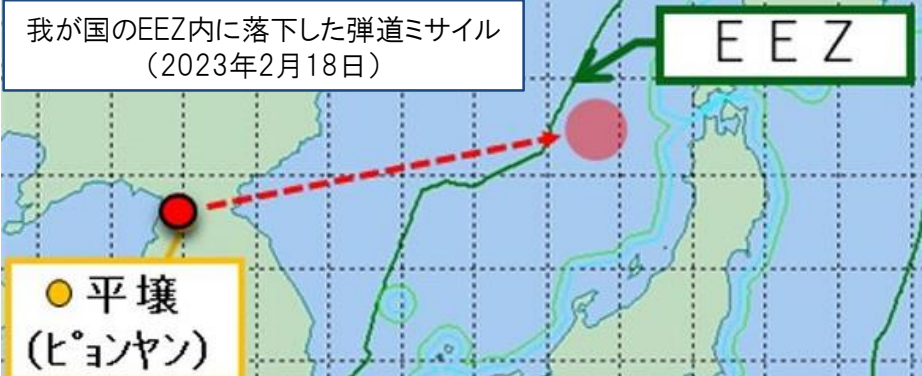
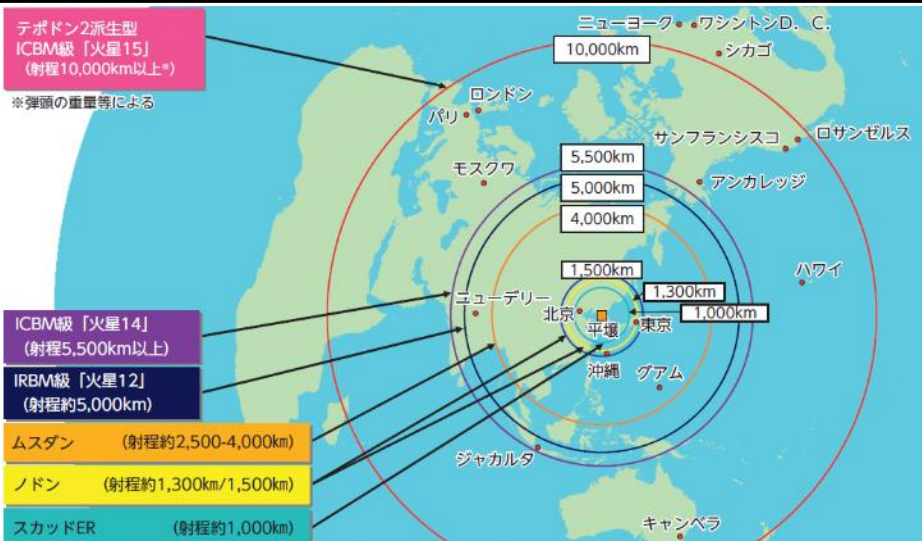
(2022年11月30日撮影)



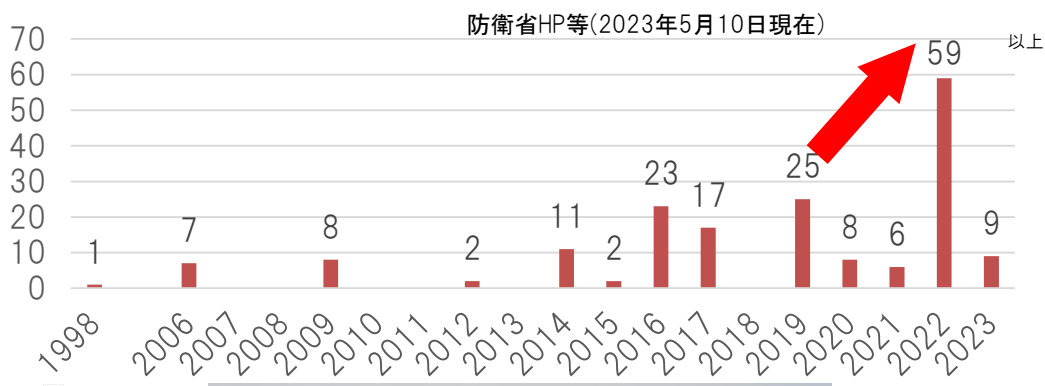
2 我が国周辺の「空」の状況(2/6): 北朝鮮



- 我が国を射程に収める弾道ミサイルを数百発保有
- 2021年以降、鉄道や潜水艦から弾道ミサイルを発射する等、**奇襲・秘匿性の向上**を企図
- 一部ミサイルは低高度を飛翔し、変則的な軌道で飛翔可能であり、ミサイル防空網の突破を企図
- 2022年1月以降、各種弾道ミサイルの発射をかつてない高い頻度で繰り返している。
- 北朝鮮は、2023年2月18日、「**ICBM火星15の発射訓練を実施**」と発表



北朝鮮の弾道ミサイル等発射弾数



北朝鮮が2023年2月18日に実施した発射訓練として公表した写真
出典:朝鮮中央通信、令和4年版防衛白書、省HP

引き続き、北朝鮮の軍事動向は、従前よりも一層重大かつ差し迫った脅威

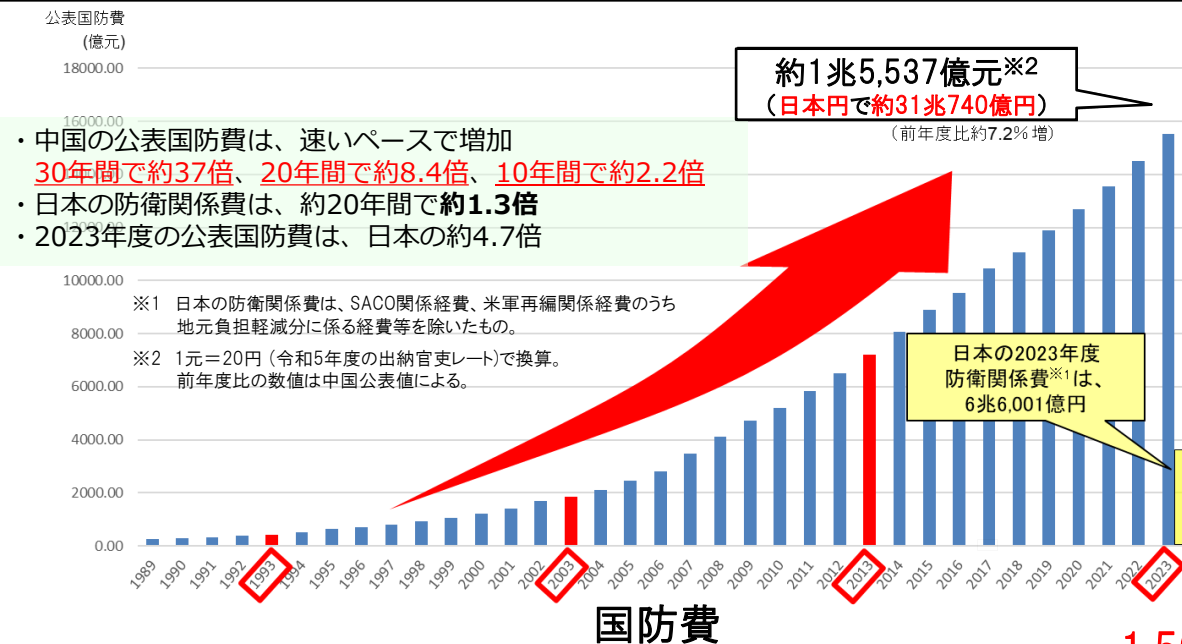


2 我が国周辺の「空」の状況(3/6)：中国①

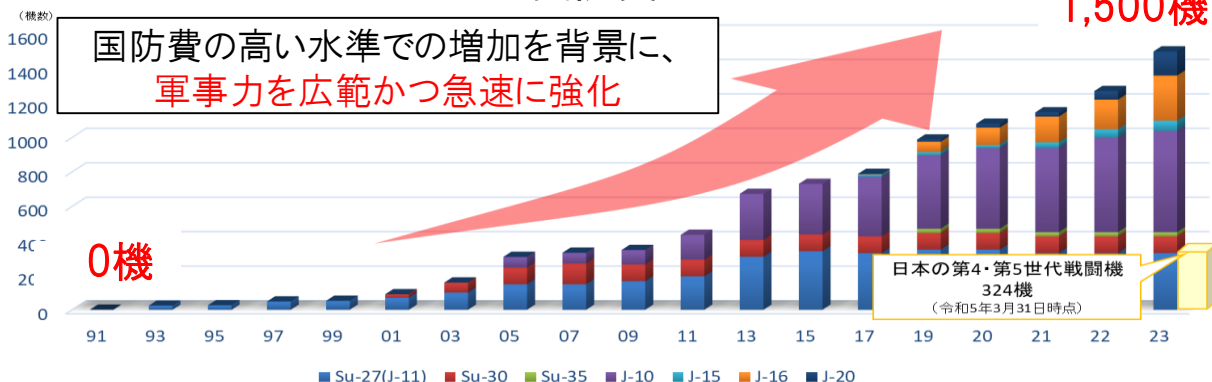


○公表している国防費は、**中国が実際に軍事目的に支出している額の一部(研究開発や外国からの兵器調達などが含まれていない。)**にすぎないとみられている。

○実際の国防支出(2021年)は、公表値より**著しく多い**との分析も(米国防省議会報告書(2022年))



出典:統幕HP



出典:台湾国防部HP

出典:令和2年版防衛白書、省HP掲載「中国情勢(東シナ海・太平洋・日本海)」(2022年1月)



2 我が国周辺の「空」の状況(4/6)：中国②



- 中国軍は、海空域での活動を質・量ともに急速に拡大・活発化。一方的な活動のエスカレーションも
- 尖閣諸島周辺のほか、日本海・太平洋における活動の定例化を企図しているとみられる。
- その他、我が国領空内で確認されていた特定の気球型の飛行物体について、更なる分析を重ねた結果、過去(2019年11月、2020年6月、2021年9月、2022年1月)に中国が飛行させた無人偵察用気球と強く推定されるに至った。

空母「遼寧」等の艦艇群が西太平洋に進出し、発着艦を実施
(2019年6月、2020年4月、2021年4月、12月、2022年5月、12月)

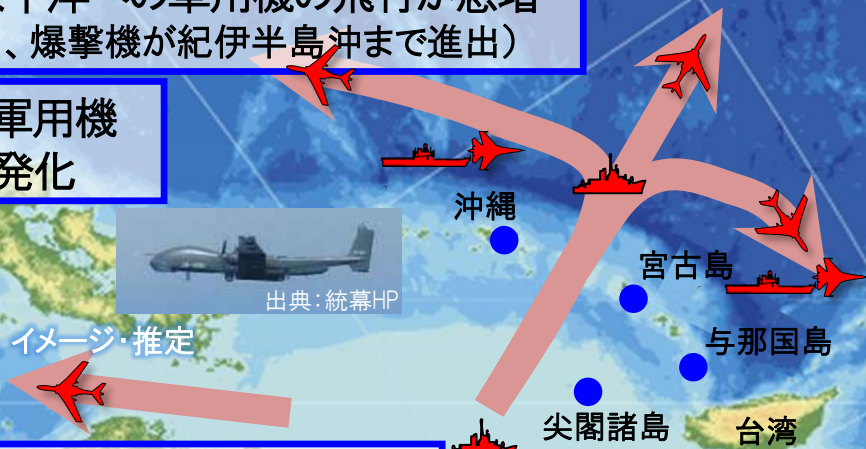
空母「山東」が初めて太平洋に進出し、
台湾周辺での訓練に参加するとともに発着艦を実施(2023年4月)

2017年～太平洋への軍用機の飛行が急増
(2017年8月、爆撃機が紀伊半島沖まで進出)

日本海への軍用機
進出の活発化



注：場所・航跡等は、イメージ・推定



中国及びロシアの爆撃機が
4年連続で共同飛行

(2019年7月、2020年12月、2021年11月、2022年5月、11月)

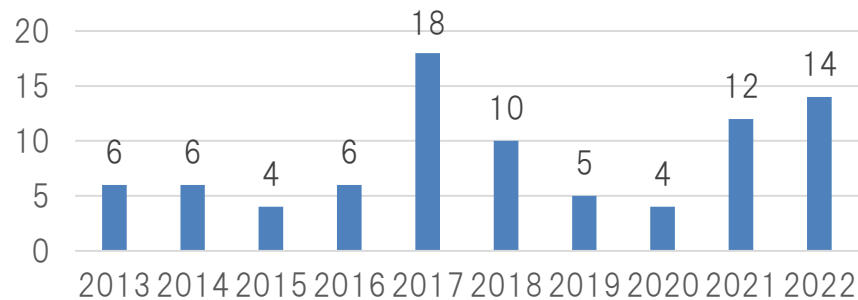
艦艇が尖閣諸島周辺
海域で恒常的に活動

西太平洋で活動した中国空母「山東」及び同艦載機(2023年4月)



西太平洋上において、約620回の発着艦を実施

中国軍機の沖縄・宮古島間通過回数(年度別)



統幕HP公表資料を基に作成(2023年3月7日現在)

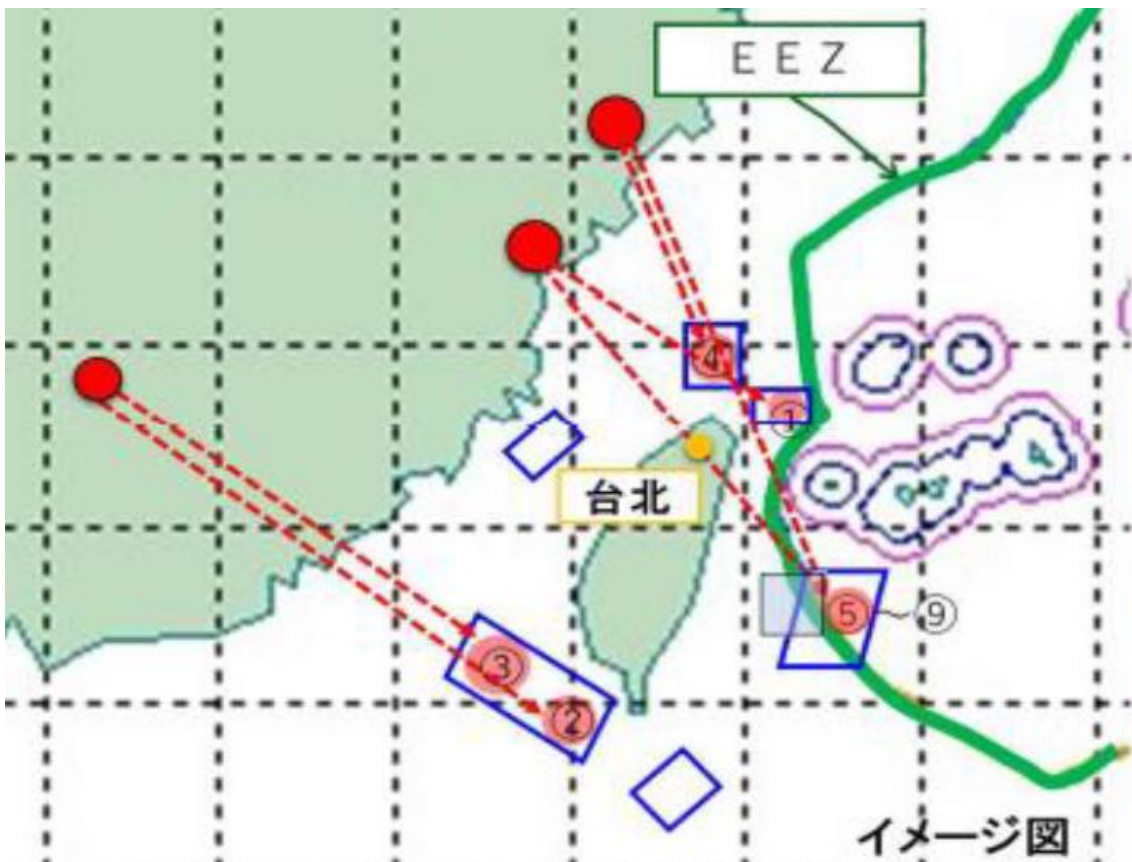
➤中国の軍事動向等は、我が国と国際社会の深刻な懸念事項であり、これまでにない最大の戦略的な挑戦



2 我が国周辺の「空」の状況(5/6)：中国③



- 中国は、近年、台湾周辺における威圧的な軍事活動を活発化させている。
- 2022年8月2日のペロシ米下院議長の訪台後、中国は、8月4日から7日にかけて、台湾周辺の6つの海域に訓練区域を設定し、台湾を取り囲むように大規模な軍事演習を実施
- 同年8月5日に中国は、9発の弾道ミサイルを発射し、内5発が我が国の排他的経済水域(EEZ)内に落下した。



アジア歴訪中、訪台したペロシ米下院議長

□ : 中国が設定した訓練区域

①～⑨: 中国が発射した弾道ミサイル



2 我が国周辺の「空」の状況(6/6)：ロシア



- 核戦力を含む各種装備の近代化を推進
- 北方領土及び千島列島における軍備も強化する等、活発な軍事活動を継続
- 中国軍と共同した軍事活動(爆撃機共同飛行及び艦艇共同航行)を確認する等協力関係を進展

新型戦闘艦艇の配備

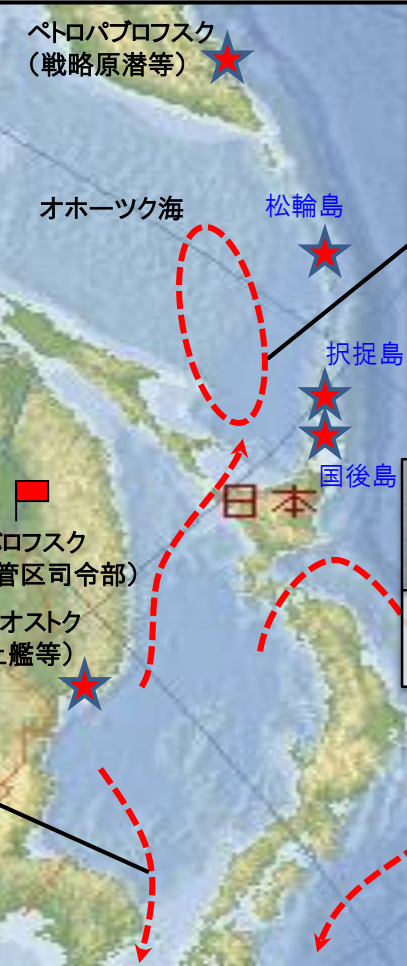
ポレイ級潜水艦



キロ改級潜水艦



ステレグシチー II 級フリゲート


2022年2月
宗谷海峡を通峡し、
オホーツク海で活動



北方4島へ主力戦車配備



主力戦車T-80BVIに換装
(2022年1月)

択捉島への戦闘機配備




Su-35戦闘機(3機)を配備
(2018年8月)

択捉島・国後島への地对艦ミサイル等配備

地对艦ミサイル「バステオン」	地对艦ミサイル「バル」	「S-300V4」
		
最大射程:300km	最大射程:130km	最大射程:400km

地对空ミサイルS-300V4を配備(2020年12月)

2022年9月、大規模演習「ヴォストーク2022」を実施



ロシアTu-95

中国H-6

2022年5月、11月中露共同飛行

➤引き続きロシア軍の活発な活動が継続



Ⅲ 航空自衛隊の将来体制の方向性



1 国家安全保障戦略・国家防衛戦略・防衛力整備計画

2 我が国の国家安全保障戦略・防衛の基本方針

3 防衛力の抜本的強化の7つの分野(7つの柱)

4 我が国への侵攻を抑止する上での鍵「反撃能力」

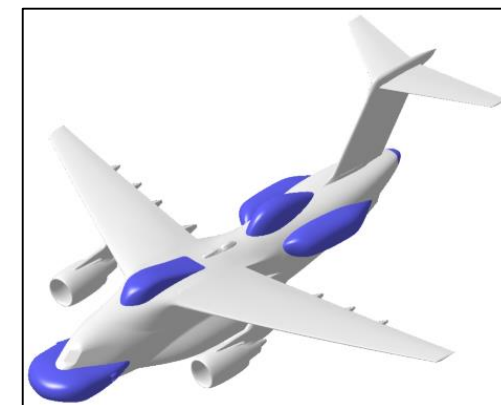
5 各柱における空自の取組



F-35A



宇宙領域専門部隊



スタンド・オフ電子戦機(イメージ)



1 国家安全保障戦略・国家防衛戦略・防衛力整備計画(1/2)



策定の背景

我が国は、戦後最も厳しく、複雑な安全保障環境に直面

- ・周辺国の急速な軍備増強
- ・力による一方的な現状変更の圧力の高まり
- ・対立・競争と協力の様相が複雑に絡み合う時代

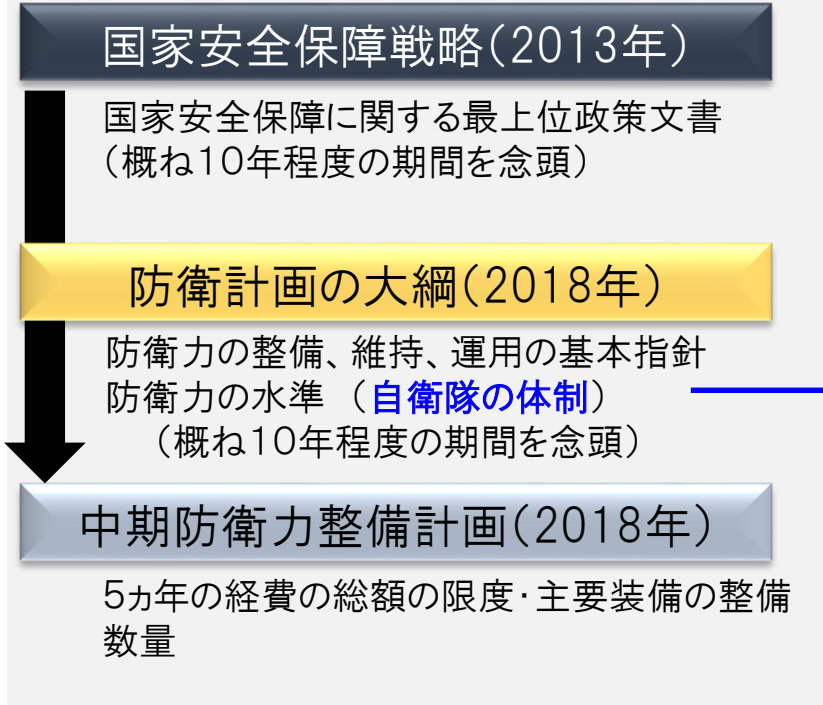
3文書の概要

○「国家安全保障戦略」は、外交・防衛分野のみならず、経済安保、技術、情報等を含む我が国の安全保障に関連する分野の諸政策に**戦略的な指針**を与えるもの

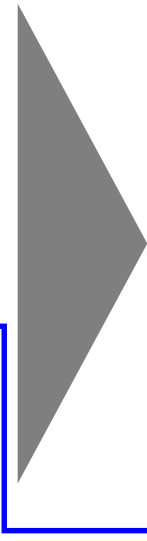
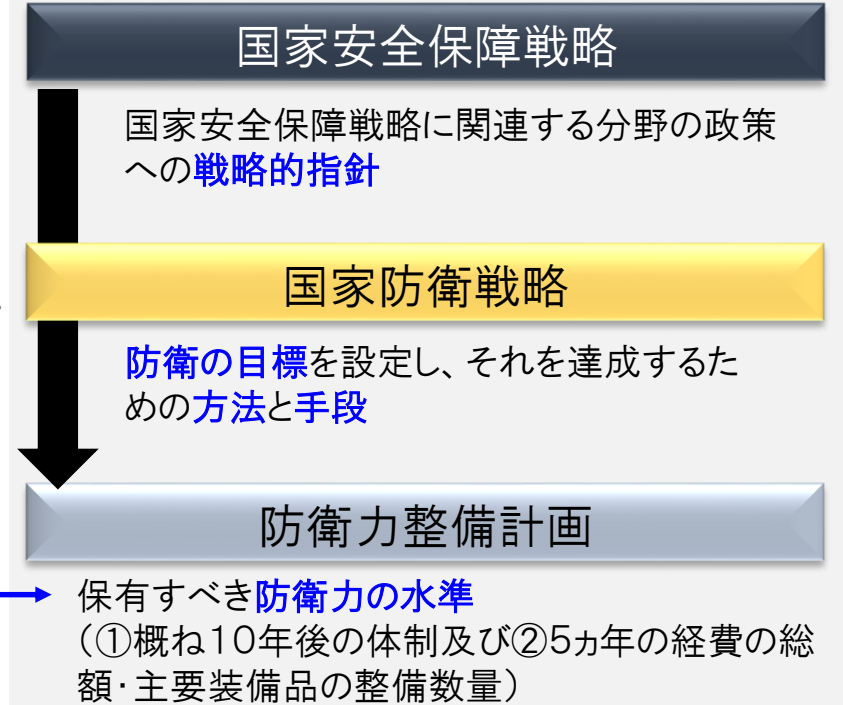
○「国家防衛戦略」では、我が国防衛の**目標**及びこれを達成するための**方法・手段**といった**基本方針**を明示

○「防衛力整備計画」では、保有すべき**防衛力の水準**を記述

これまでの戦略文書体系



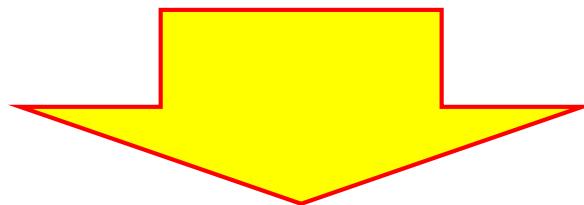
今般の戦略文書体系





防衛力構築の考え方

- 我が国を含む国際社会はこれまでにない**深刻な挑戦**を受け、**新たな危機に突入**
- 現在は、強力な軍事能力を持つ主体が、他国に脅威を直接及ぼす**意思をいつ持つに至るかの予測は極めて困難**な状況
- 大規模なミサイル攻撃、ハイブリッド戦の展開、宇宙・サイバー・電磁波の領域や無人アセットを用いた非対称的な攻撃、核保有国による公然とした核による威嚇などを組み合わせた**新しい戦い方が顕在化**



- 今後の防衛力については、相手の**能力と戦い方**に注目して、我が国を防衛する「**能力**」をこれまで以上に**抜本的に強化**



2 我が国の国家安全保障戦略・防衛の基本方針



国家安全保障戦略・国家防衛戦略

- 外交、防衛、経済、技術、情報等の総合的な国力を有機的・効率的に用いて国益を確保するための戦略的なアプローチを推進
- その上で、3つの防衛目標を達成するための3つのアプローチと手段により、あらゆる努力を統合することで、国民の命と平和な暮らし、そして、我が国の領土・領空・領海を断固として守り抜く

3つの防衛目標

①力による一方的な現状変更を許容しない**安全保障環境を創出**



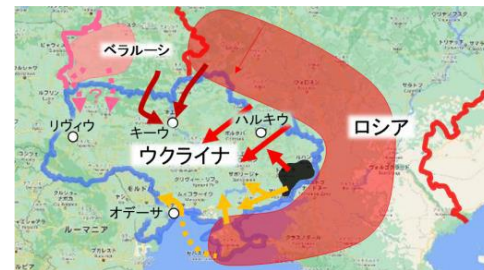
G7首脳会合(2022年3月)

②力による一方的な現状変更やその試みを、**同盟国・同志国等と協力・連携して抑止・対処し、早期に事態を収拾**



中国の力による一方的な現状変更の試みと活動の活発化

③万が一、我が国への侵攻が生起した場合、我が国が主たる責任をもって対処し、**同盟国等の支援を受けつつ、これを阻止・排除**



ロシア軍によるウクライナへの全面侵攻

防衛目標を達成するための3つのアプローチ

①我が国自身の防衛体制の強化

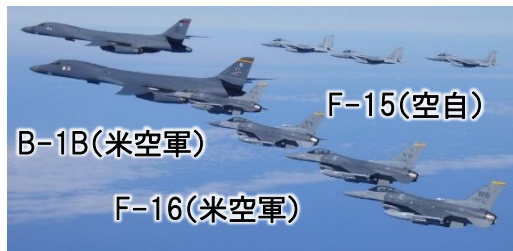
- 我が国の**防衛力を抜本的に強化**
- 国全体の防衛体制を強化



F-35A/Bの**取得ペースの加速**

②日米同盟の抑止力と対処力の強化

- “**日米の意志と能力を顕示**”



米空軍との編隊航法訓練(2023年3月)

③同志国等との連携の強化

- “**一か国でも多くの国々との連携を強化**”



日独共同訓練(2022年9月)



3 防衛力の抜本的強化の7つの分野(7つの柱)




国民の命と平和な暮らし、そして、我が国の領土・領空・領海を断固として守り抜く

➤ 防衛力を抜本的に強化することで、我が国を断固として守り抜くという意味と、十分な能力があることを認識させ、相手に我が国を侵略する意思を持たせないことにつながる。


➤ 我が国の防衛上必要な機能・能力として、下記の7分野を重視して、防衛力の抜本的強化に取り組む。

● 我が国への**侵攻そのものを抑止**するために、遠距離から侵攻戦力を阻止・排除

① スタンド・オフ防衛能力




② 統合防空ミサイル防衛能力



● 万一抑止が破れ、我が国への**侵攻が生起した場合**、①②の能力に加え、有人アセット、更に無人アセットを駆使しつつ、水中・海上・空中といった**領域を横断して優越を獲得し、非対称的な優勢を確保**

③ 無人アセット防衛能力




④ 領域横断作戦能力



⑤ 指揮統制・情報関連機能

● **迅速かつ粘り強く活動**し続けて、相手方の侵攻意図を断念

⑥ 機動展開能力・国民保護



⑦ 持続性・強靱性



4 我が国への侵攻を抑止する上での鍵「反撃能力」



ミサイル攻撃の脅威の現状

- 我が国周辺では、極超音速兵器等のミサイル関連技術と飽和攻撃など実戦的なミサイル運用能力が飛躍的に向上し、質・量ともにミサイル戦力が著しく増強される中、ミサイルの発射も繰り返されており、ミサイル攻撃が現実の脅威となっている。
- こうした中、防衛省としては、今後も、変則的な軌道で飛翔するミサイル等に対応し得る技術開発を行うなど、ミサイル防衛能力を質・量ともに不断に強化していく。
- しかしながら、弾道ミサイル防衛という手段だけに依拠し続けた場合、今後、この脅威に対し、既存のミサイル防衛網だけで完全に対応することは難しくなりつつある。



反撃能力の保有の必要性

- 相手からミサイルによる攻撃がなされた場合、ミサイル防衛により飛来するミサイルを防ぎつつ、相手からの更なる武力攻撃を防ぐために、我が国から有効な反撃を相手に加える能力、すなわち反撃能力を保有する必要がある。

「反撃能力」の考え方

- 「反撃能力」とは、我が国に対する武力攻撃が発生し、その手段として弾道ミサイル等による攻撃が行われた場合、武力の行使の三要件に基づき、そのような攻撃を防ぐのにやむを得ない必要最小限度の自衛の措置として、相手の領域において、我が国が有効な反撃を加えることを可能とする、スタンド・オフ防衛能力等を活用した自衛隊の能力をいう。
- こうした有効な反撃を加える能力を持つことにより、武力攻撃そのものを抑止する。その上で、万一、相手からミサイルが発射される際にも、ミサイル防衛網により、飛来するミサイルを防ぎつつ、反撃能力により相手からの更なる武力攻撃を防ぎ、国民の命や平和な暮らしを守っていく。



5 各柱における空白の取組 ①スタンド・オフ防衛能力(1/2)



- 隊員の安全を可能な限り確保する観点から、相手の脅威圏外からできる限り遠方において阻止する能力を高め、抑止力を強化することが重要
- スタンド・オフ・ミサイルの早期装備化及び運用能力の向上が必要

スタンド・オフ・ミサイルの取得



※1 JSM(イメージ)



※2 JASSM(イメージ)



12式地対艦誘導弾能力向上型(イメージ)

● F-35AやF-15能力向上機に搭載するスタンド・オフ・ミサイルを取得

➢ JSMの取得(令和5年度予算額:347億円)

➢ JASSMの取得(同:127億円)

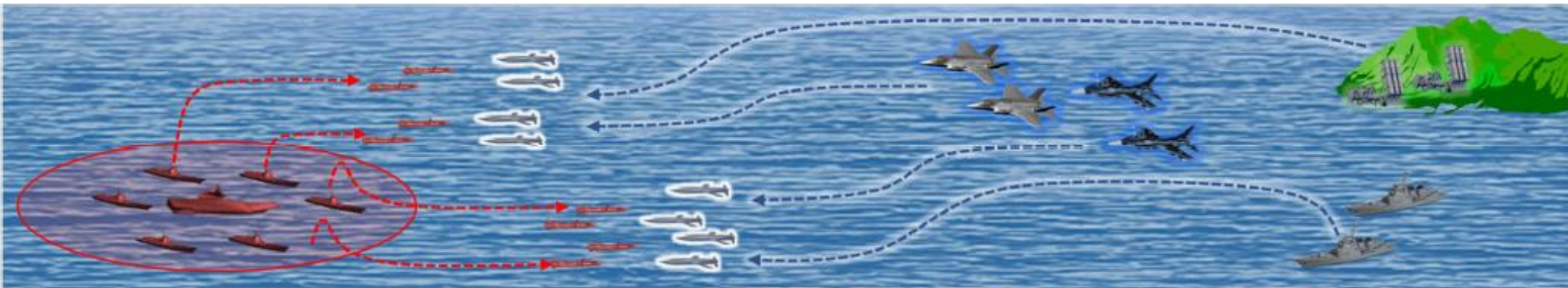
● 12式地対艦誘導弾能力向上型(空発型)の開発

➢ 12式地対艦誘導弾能力向上型の開発
(同:※3338億円)

※3 地発型・艦発型を含む。

※1 JSM: Joint Strike Missile

※2 JASSM: Joint Air-to-Surface Stand-Off Missile



スタンド・オフ・ミサイルによる侵攻部隊の阻止(イメージ)



5 各柱における空白の取組 ①スタンド・オフ防衛能力(2/2)



発射プラットフォームの取得・改修等

●各種スタンド・オフ・ミサイルを多様なプラットフォームから発射・搭載可能とするため、既存プラットフォームを改修



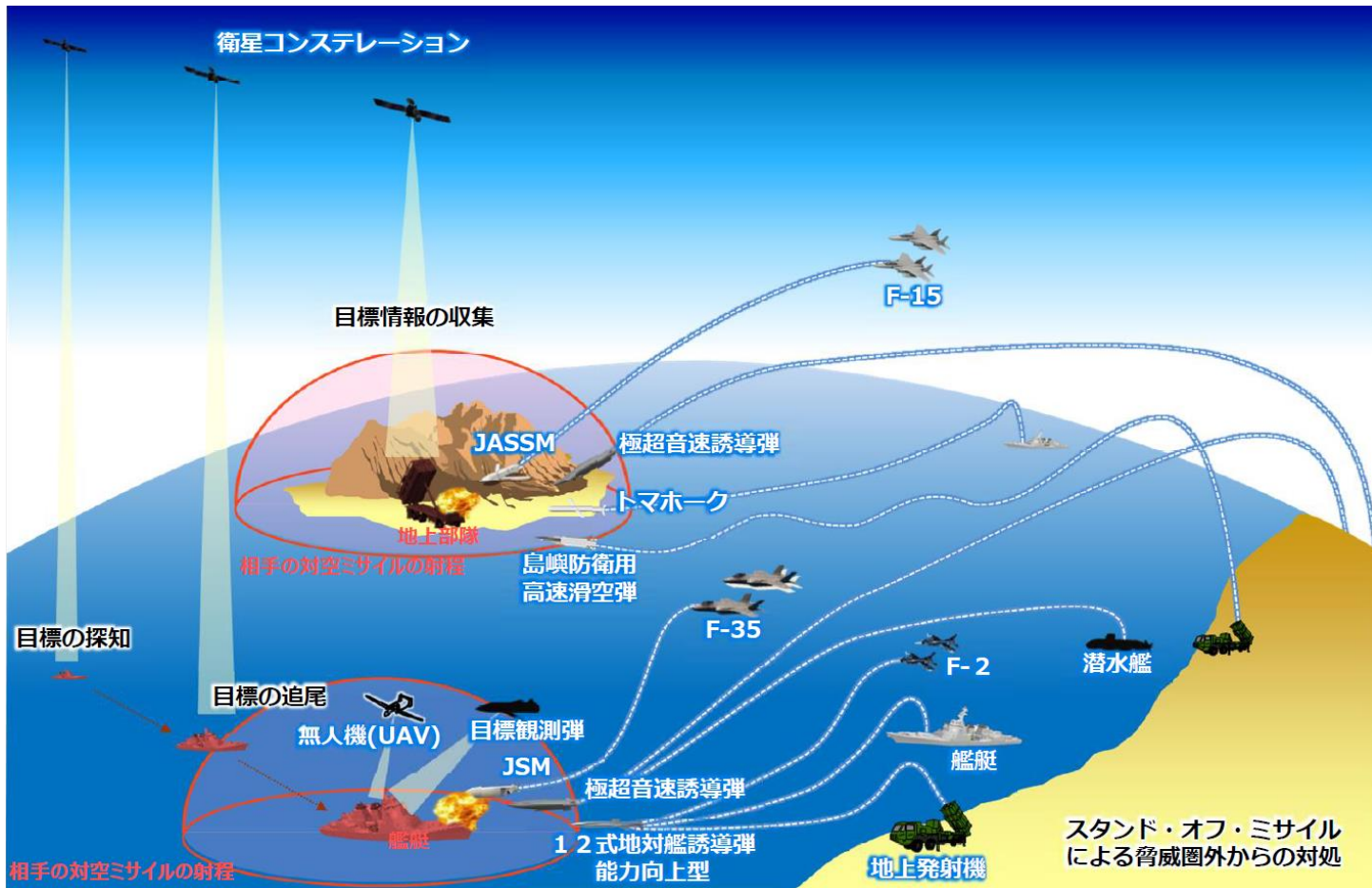
➤F-35A能力向上改修(JSM)
(令和5年度予算額:3機 41億円)



➤F-15能力向上改修(JASSM)
(令和5年度予算額:18機 1,627億円)



➤F-2能力向上改修
(12式地对艦誘導弾能力向上型(空発型))
(令和5年度予算額:9機 128億円)



今後のスタンド・オフ防衛能力の運用(イメージ)



5 各柱における空自の取組 ②統合防空ミサイル防衛能力



- 各種ミサイルや航空機等の**多様化・複雑化する経空脅威に適切に対処**することが重要
- 探知・追尾能力の向上や、ネットワーク化による効率的対処の実現、迎撃能力の強化が必要
- まず、**ミサイル防衛システム**を用いて、公海及び我が国の領域の上空で、我が国に向けて**飛来するミサイルを迎撃**
- その上で、弾道ミサイル等の攻撃を防ぐために**やむを得ない必要最小限度の自衛の措置**として、相手の領域において、有効な反撃を加える能力(**反撃能力**)として、**スタンド・オフ防衛能力等を活用**

迎撃アセットの強化



PAC-3※1MSE



LTAMDS
(出典:レイセオン社HP)

センサ・ネットワーク等の強化



FPS-5



FPS-7



E-2D



TPS-102A

- BMDと巡航ミサイル・航空機対処の双方に対応可能、かつ射程が延伸されたPAC-3MSEミサイルを取得
- PAC-3MSE
(令和5年度予算額:421億円)
- 極超音速滑空兵器(※2HGV)等への対処能力を向上させるため、地对空誘導弾ペトリオット・システムを改修し、新型レーダー(LTAMDS)の導入を検討
- ※1 MSE: Missile Segment Enhancement

- HGV等の探知・追尾能力を強化するための機能付加等
- FPS-5改修(令和5年度予算額:3億円)・FPS-7改修(同:43億円)
- 機能付加をしたFPS-7を統制するため、自動警戒管制システム(JADGE)をFPS-7に適合化等警戒管制能力の強化
- JADGEの能力向上(同:90億円)
- 南西地域における常続的な警戒監視態勢を強化
- 移動式警戒管制レーダー(TPS-102A)取得(同:28億円)
- 太平洋側の広大な空域を含む我が国周辺空域の警戒監視能力の強化のため、早期警戒機を取得
- 早期警戒機(E-2D)取得(同:1,941億円)
- ※2 HGV: Hypersonic Glide Vehicle



5 各柱における空自の取組 ③無人アセット防衛能力



- 無人アセットは**革新的なゲームチェンジャー**であるとともに、**人的損耗を局限**しつつ、**空中・水上・海中**等で**非対称的に優勢を獲得**可能
- **長期連続運用**などの**各種制約を克服**して、**隙のない警戒監視態勢**などを**構築**することが**重要**
- 航空機、艦艇、車両の各分野における無人アセットの**早期取得・運用開始**が必要

戦術無人機(イメージ)の飛行実証

● スタンド・オフ防衛能力の実効性確保のため、侵攻部隊等の情報を目標近傍で収集し得る偵察用UAV(戦術無人機)の実証研究を実施



滞空型無人機(グローバルホークの運用)

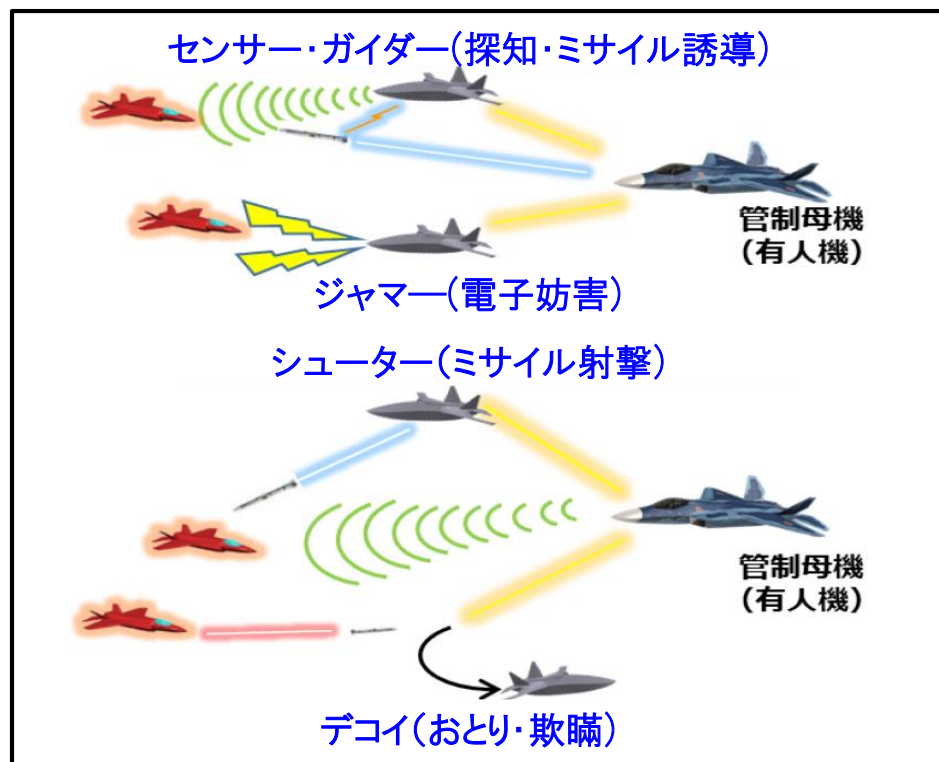
● 2022年RQ-4Bを導入し、同機を運用する偵察航空隊を新編



2022年12月RQ-4B初飛行

無人機の研究開発

● 次期戦闘機等の有人機と連携する戦闘支援無人機(UAV)についても研究開発を推進



有人機と無人機の連携の例(イメージ)

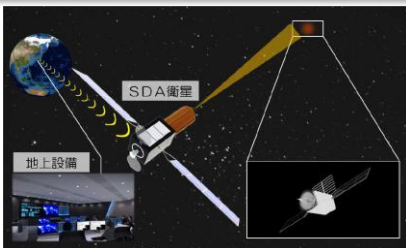


5 各柱における空自の取組 ④領域横断作戦能力(1/11)



➢ 陸海空領域に加え、**宇宙**(衛星の活用による情報収集機能の強化等)、**サイバー**(セキュリティ対策の強化、サイバー要員の育成等)、**電磁波**(電子戦能力、電磁波管理機能の強化等)などの**組み合わせ**により**非対称的に優勢を確保**していくため、抜本的な能力強化が必要

宇宙領域の強化



※SDA衛星(イメージ)

- 宇宙領域把握(SDA)の強化のため、SDA衛星を整備
- 宇宙利用の優位性を確保し得る体制を整備し、航空自衛隊を**航空宇宙自衛隊**へ ※SDA: Space Domain Awareness

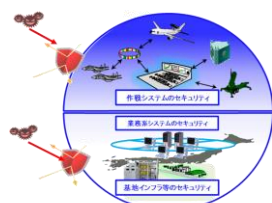
電磁波領域の強化



スタンド・オフ電子戦機(イメージ)

- 自衛隊の通信妨害・レーダー妨害能力を強化
- スタンド・オフ電子戦機開発(令和5年度予算額:83億円)

サイバー領域の強化



- 任務遂行の基盤となる自衛隊のシステムを統合・共通化したクラウドを整備し、一元的なサイバーセキュリティ対策を実施
- 空自クラウドを整備(令和5年度予算額:756億円)

空領域の強化



F-35A

F-35B

F-15能力向上

- 装備品等の取得及び能力向上等を加速
- F-35A取得(令和5年度予算額:8機 1,069億円)
- F-35B取得(同:8機 1,435億円)
- F-15能力向上(同:18機 1,627億円)



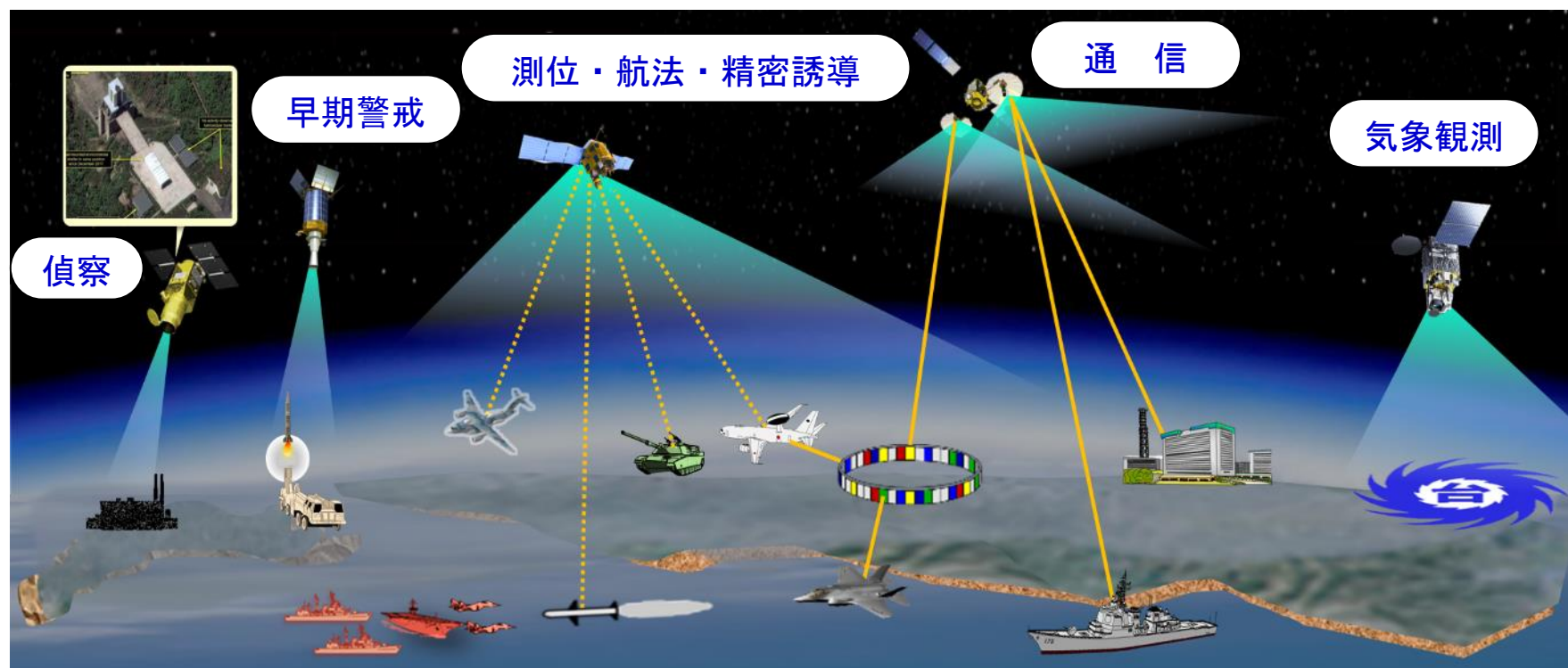
宇宙

宇宙空間の戦闘領域化

- ・宇宙領域は民生分野でも広範に活用されており、安定的な利用が妨げられれば国家・国民の安全に重大な影響。また、軍事作戦上の**指揮統制・情報収集基盤の中枢**を成す。
- ・このため、**一部の国家は宇宙システムへの妨害活動を活発化**させている状況

国境概念がない国際共有空間

官民を問わずに同じ空間(軌道)を利用しており、その中で、**安定的利用を如何に確保するか**が課題(多国間、省庁間及び官民の連携が必須)



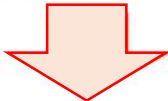


宇宙ゴミの急激な増加

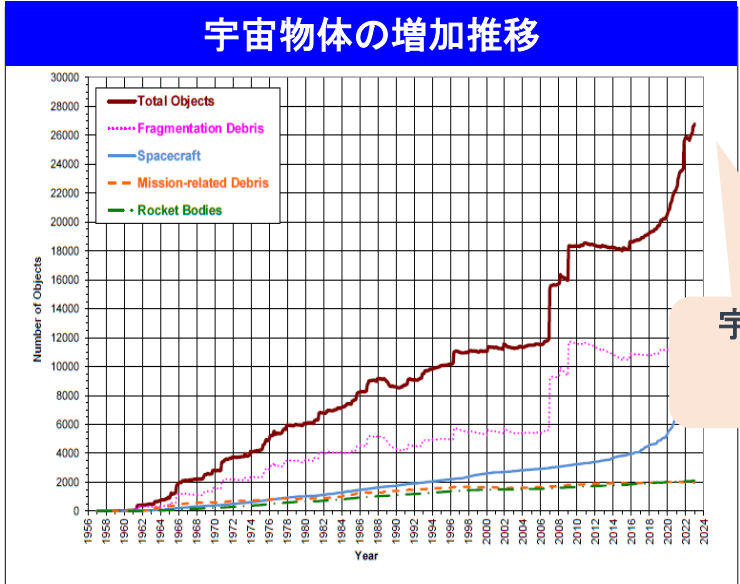
宇宙ゴミ(スペースデブリ)と人工衛星が衝突して、衛星の機能が著しく損なわれる危険性が増大

対衛星兵器の開発

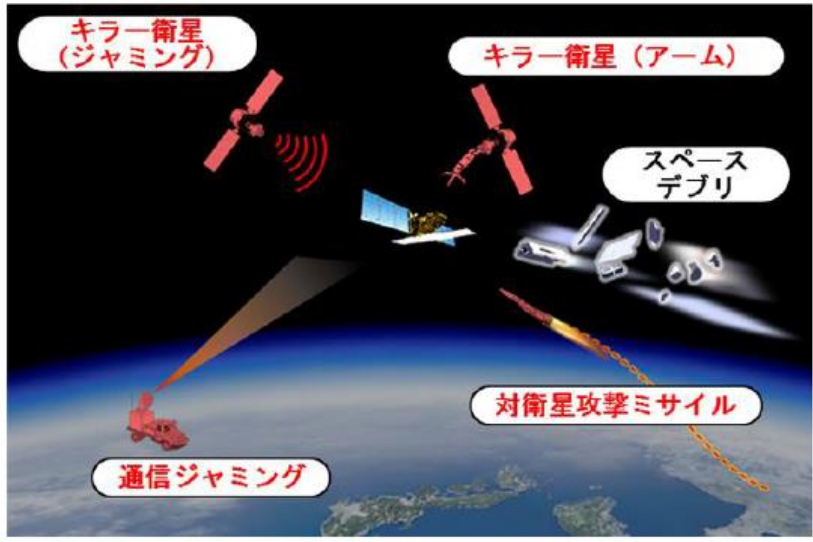
中露は、対衛星能力(対衛星兵器(ASAT)、電波妨害装置(ジャマー)、レーザー兵器等)を開発し、宇宙利用を妨害する能力を強化



我が国の安全保障や経済社会が依存する宇宙システムに対する脅威が増大



宇宙物体の合計数
約2万6千個
(2023年)





宇宙領域の安定的利用を確保するため「宇宙領域把握」を実施



■従来領域とは異なる特性

→ 宇宙領域に関する現況の把握には新たな態勢が必要

■社会インフラ化した宇宙

→ 宇宙領域把握のプロダクトを活用し宇宙利用の確保に貢献

■任務遂行に不可欠な宇宙

→ 自衛隊の任務遂行を保証し得る宇宙作戦能力を構築



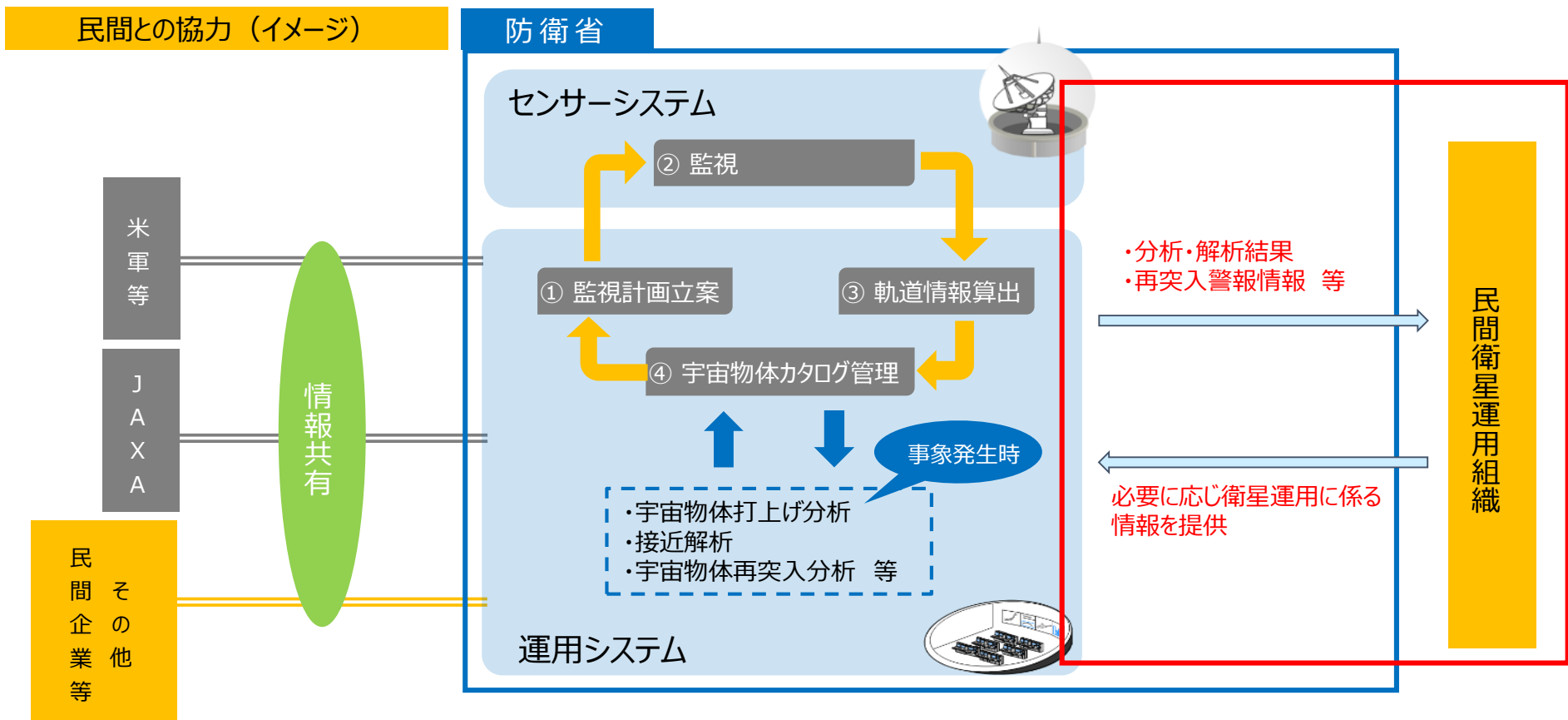
5 各柱における空自の取組 ④領域横断作戦能力(5/11)



宇宙領域把握(SDA)の開始

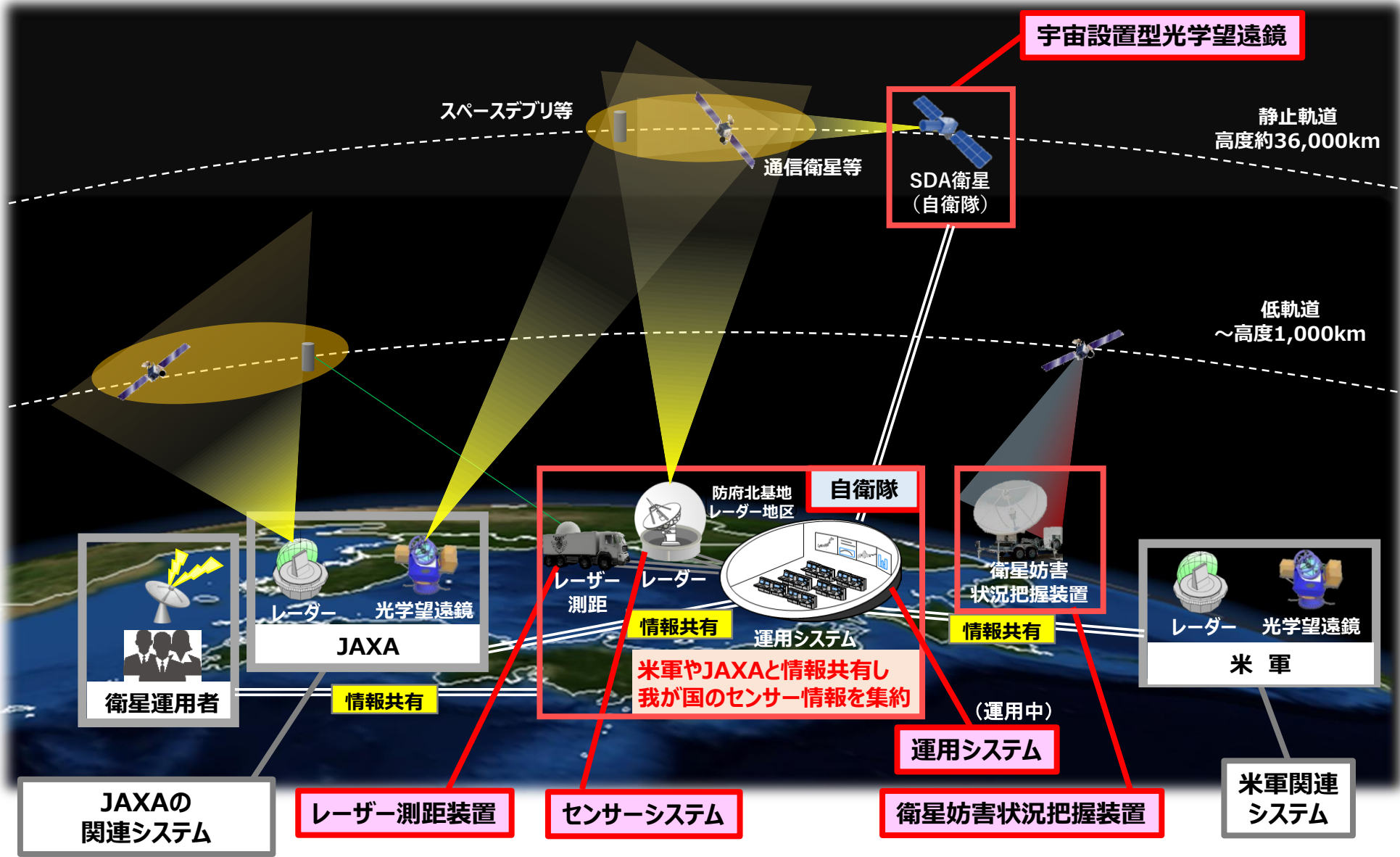
○2023年度から運用システムを本格的に運用開始し、それにあわせて民間の衛星運用事業者との情報の共有を開始

○きめ細かい情報の提供が可能となり、回避行動の抑制に寄与





5 各柱における空自の取組 ④領域横断作戦能力(6/11)





5 各柱における空白の取組 ④領域横断作戦能力(7/11)



宇宙作戦隊 新編

2020年5月18日



宇宙作戦群 新編

2022年3月17日

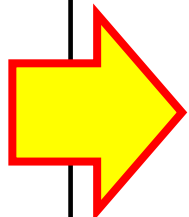


宇宙作戦群 改編

2023年3月16日



宇宙作戦隊

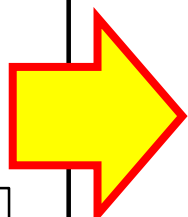


宇宙作戦群

群本部

宇宙作戦
指揮所運用隊

宇宙作戦隊



宇宙作戦群

群本部

宇宙作戦
指揮所運用隊

第1宇宙
作戦隊

第2宇宙
作戦隊

宇宙システム
管理隊



5 各柱における空自の取組 ④領域横断作戦能力(8/11)



- 米宇宙軍主催の宇宙・空軍参謀総長等会議への参加による、関係国とのハイレベル交流の推進
- 米宇宙コマンドへの連絡官の派遣による日米宇宙関係の強化
- 多国間机上演習「グローバル・センチネル演習」等への参加によるSDA運用に係る知見収集

ハイレベル交流
(宇宙・空軍参謀長等会議)



米宇宙コマンド連絡官の派遣
(合意文書締結)



多国間机上演習
(グローバル・センチネル演習)



多国間机上演習
(シュリーバー演習)

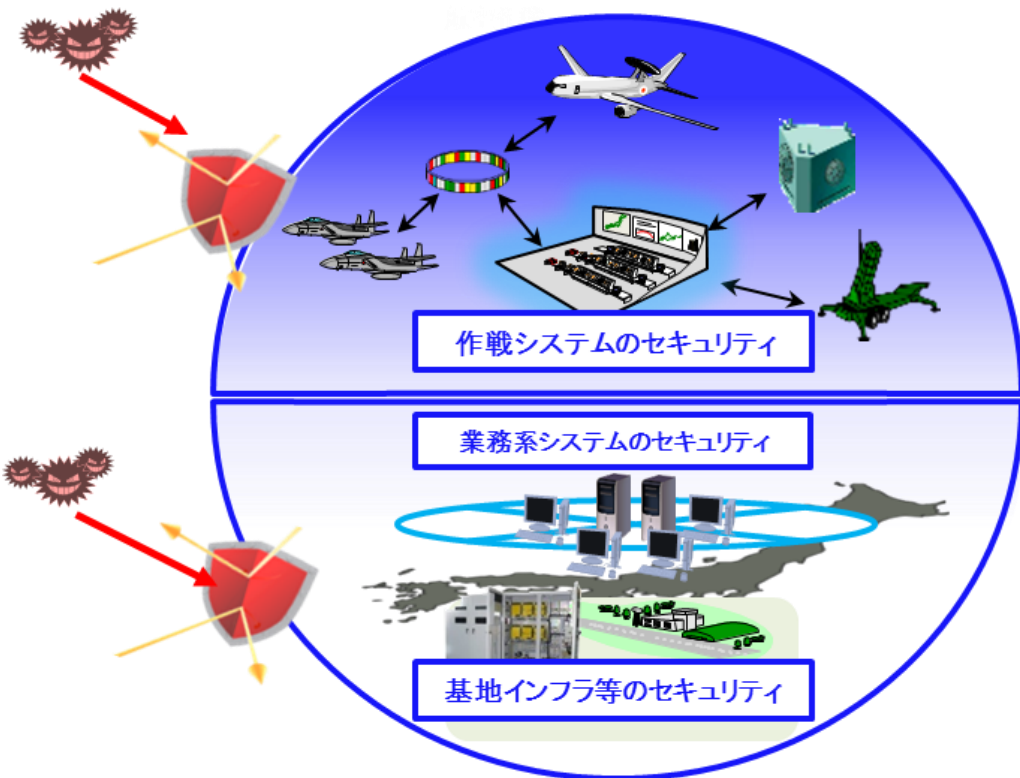


宇宙空間における新たな脅威に対する抑止力の向上



サイバー

部隊等の任務遂行をサイバー能力の側面から保証する態勢の構築
(状況に応じて自衛隊サイバー防衛隊と連携)



AIの導入

業務系システムの防護部隊
(空自サイバー防護の司令塔)

作戦システムの防護部隊

横田等

市ヶ谷

各基地等

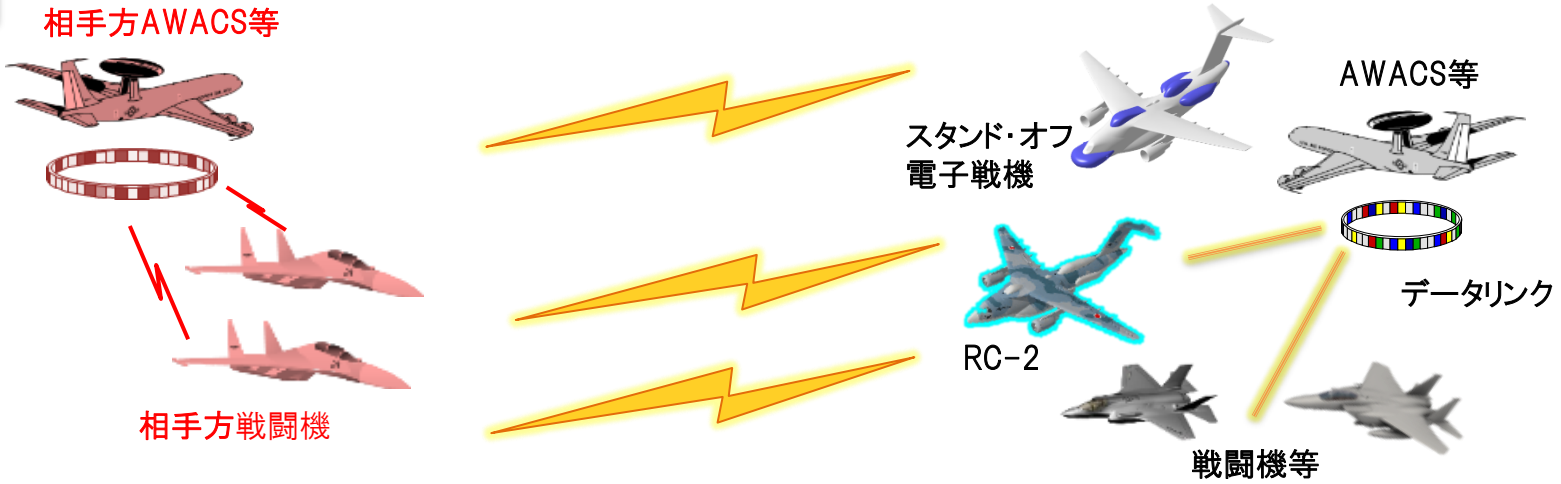
基地インフラ等の防護部隊

【航空自衛隊の取組】

- ①人材育成
- ②各種監視装置等の整備
- ③サイバー訓練基盤の整備
- ④部外力の活用



電磁波



➤相手方のレーダーや通信等を無力化し得る能力の獲得・強化

電子戦能力の高い戦闘機 (F-35) の整備	戦闘機 (F-15) の能力向上 (新たな電子戦装置等)	電波情報収集機 RC-2 の配備	スタンド・オフ電子戦機の開発

➤領域横断作戦に寄与するため、電磁波領域における優勢を確保するための取組を推進



5 各柱における空自の取組 ④領域横断作戦能力(11/11)



空領域








戦闘機数を確保しつつ質的強化

➢ F-35Aを引き続き取得し、近代化に適さないF-15(非近代化機)については、能力の高いF-35Aの増勢により代替するとともに、戦闘機の離発着が可能な飛行場に限られる中、戦闘機運用の柔軟性を向上させるため短距離離陸・垂直着陸が可能な戦闘機(※STOVL機)としてF-35Bを新たに導入することで代替

➢ F-15近代化機については、電子戦能力の向上、スタンド・オフ・ミサイルの搭載等の能力向上を実施

➢ F-2の後継機(次期戦闘機)については、改修の自由や同盟国との相互運用性を確保しつつ、英国及びイタリアと共同開発を推進

※ STOVL(Short Take Off Vertical Landing): 短距離離陸・垂直着陸

年度(西暦)	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
F-35A 33機		整備数:42機 (2011年に取得を決定済)					
F-15 非近代化機 99機 (※1)		➔	 F-35A	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「F-35Aの取得数の変更について」(2018年12月18日閣議了解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・F-35A 42機 → 147機に変更(105機の増勢) ・うち、42機は短距離離陸・垂直着陸が可能な戦闘機(STOVL機)に替え得る <p>→2019年8月16日、STOVL機としてF-35Bを選定</p> </div>			
		 F-35B					
F-15 近代化機 101機 (※2)		➔	 F-15能力向上				
F-2 91機		➔		<div style="border: 2px dashed blue; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">次期戦闘機</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2020年度より開発に着手 ● 2022年度に日英伊3カ国共同開発を決定 </div>			

(※1) 近代化改修に適さない機体

(※2) 近代化改修を行っていない機体8機を含む。

(2023年3月末現在)



5 各柱における空自の取組 ⑤指揮統制・情報関連機能



- 我が国周辺における**軍事動向等を常時継続的に情報収集**するとともに、ウクライナ侵略でも見られたような**認知領域を含む情報戦等**にも対応できるよう情報機能を抜本的に強化し、隙のない情報収集態勢を構築する必要
- 迅速・確実な指揮統制を行うためには、**抗たん性のあるネットワーク**により、**リアルタイムに情報共有**を行う能力が必要
- AIを活用した意思決定の迅速化に関する研究を行う等、**AIの導入・拡大**を推進

指揮統制機能の強化

- 航空自衛隊の指揮統制機能の抗たん性を強化
- 自動警戒管制システム(JADGE)を換装

- 宇宙関連装備品の運用を一元的に指揮統制する必要
- 宇宙作戦指揮統制システムを整備

情報関連機能(電波情報)



RC-2

- 受信電波周波数範囲の拡大や遠距離目標情報収集能力の強化等各種能力が向上したRC-2を導入し、自衛隊の電磁波領域における能力の向上に寄与
- RC-2搭載装置等の取得(令和5年度予算額:130億円)

情報関連機能(目標情報)

- スタンド・オフ・ミサイルの運用能力を向上させるため、相手の脅威圏内において目標情報を継続的に収集し得る無人機(UAV)を導入



戦術無人機(イメージ)

情報部隊の強化

- 部隊の任務遂行に必要な情報機能の強化
- 防衛力整備計画期間中に作戦情報基幹部隊を新編



5 各柱における空白の取組 ⑥機動展開能力・国民保護



- 我が国の地理的特性を踏まえると、**部隊を迅速に機動展開する能力を構築**するとともに、それを可能にする**基盤の整備**が必要
- 輸送船舶、**輸送機**、輸送ヘリコプター等の各種輸送アセットの取得等による輸送力の強化が必要

輸送機等の増勢

- 島嶼部を含む我が国への攻撃に対して、必要な部隊を迅速に機動・展開できる輸送力を強化
- 輸送機等を増勢



C-2輸送機



KC-46A 空中給油・輸送機

※ イメージ



公共インフラ、民間輸送力の活用

- 自衛隊の機動展開や国民保護の実効性を高めるために、平素から各種アセット等の運用を適切に行えるよう
- 特に南西地域における空港・港湾等を整備・強化する施策に取り組むとともに、既存の空港・港湾等を運用基盤として使用するために必要な措置を講ずる。
- さらに、自衛隊の機動展開のための民間船舶・航空機の利用の拡大について関係機関等との連携を深めるとともに、当該船舶・航空機に加え自衛隊の各種輸送アセットも利用した国民保護措置を計画的に行えるよう調整・協力する。



民間空港利用の例(福江空港へ着陸するF-2)
長崎県五島市防災訓練(2021年7月)



5 各柱における空白の取組 ⑦持続性・強靱性(1/3)



➤ 自衛隊の運用を円滑にするため、**弾薬の確保**、**可動数の向上**(部品不足の解消等)、施設の強靱化(施設の抗たん性の向上等)、**運用基盤の強化**(製造態勢の強化等)等を図ることが重要

航空機可動数の向上

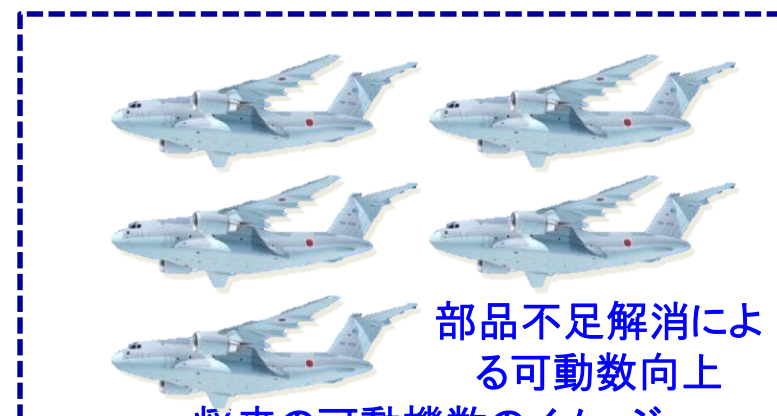
- 防衛装備品の高度化・複雑化により調達単価と整備費用が上昇
- 過酷な環境で使用する装備品も多数あり、確実にメンテナンスしなければ非可動が発生。一部の装備品では、部品不足等により可動状態にない同じ装備品から部品を取り出し転用する、いわゆる「共食い整備」を実施
- 有事に際して真に戦える自衛隊とするためには、十分な部品と修理費の確保が必要
 - 調達に要するリードタイムを考慮した部品費と修理費の確保により、部品不足による非可動を解消し、航空機の可動数を最大化
 - 防衛力整備計画期間中、装備品等の維持整備費として空自は、3.2兆円を確保



部品取りされたF-2戦闘機



現在の可動機数のイメージ



将来の可動機数のイメージ



5 各柱における空白の取組 ⑦持続性・強靱性(2/3)



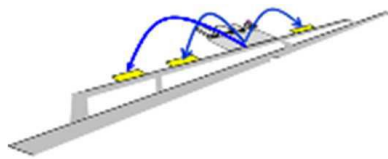
施設の強靱化

●ミサイル攻撃等への抗たん性を高めるため、重要施設の地下化や装備品を防護するための各種取組が必要

➢主要司令部等の地下化、簡易防護壁、戦闘機用分散パッド等を整備



簡易防護壁



戦闘機用分散パッド

●組織の最適化等に伴う、首都圏部隊等の再配置のため、庁舎等を整備

➢複数基地に所在していた航空医学実験隊を入間基地へ集約するため新たな庁舎を整備



航空医学実験隊庁舎(入間)

●戦力発揮の基盤である各施設の運用に不可欠な電気、上下水を確認し、基地機能の抗たん性を確保するため、ライフラインの機能を強化

➢電力線や給水管、排水管などの老朽した部分の更新を行ったうえで、管路等の再配置や多重化により、ライフラインを強靱化

各設備における不具合事例



●新規装備品導入などに伴う施設整備等

➢C-2輸送機を入間基地に受け入れるため、各種施設を整備



空輸貨物ターミナル(入間)



機体洗機場(入間)



5 各柱における空白の取組 ⑦持続性・強靱性(3/3)



弾薬等の整備

- 継続的な部隊運用に必要な航空機搭載弾薬、PAC-3MSE弾等の各種弾薬について、所要の数量を早期に整備
- F-35A/B、F-15能力向上改修機に搭載する中距離空対空ミサイルAIM-120の整備(令和5年度予算額:335億円)



AIM-120

- F-2及びF-15に搭載する中距離空対空ミサイルAAM-4Bの整備(同:119億円)



AAM-4B

- F-2に搭載する空対艦ミサイルASM-3Aの整備(同:93億円)



ASM-3A

燃料等の確保

- 航空燃料を早期かつ安定的に確保
- ※1 新たな調達方式について検討



- 将来における航空燃料の安定供給に寄与する取組
- 『防衛省気候変動対応戦略』に基づき、検証を目的として※2 SAFを特別輸送機へ使用



特別輸送機へのSAFの使用

※1 フォーミュラ方式(単価変動型包括単価契約): 燃料を年間単価で包括契約により調達する方式であり、契約手続き等による調達リードタイムが削減され、安定的な燃料の調達が可能
 ※2 SAF: Sustainable Aviation Fuel(持続可能な航空燃料)



IV トピックス



1 30大綱期間中の航空自衛隊の取組

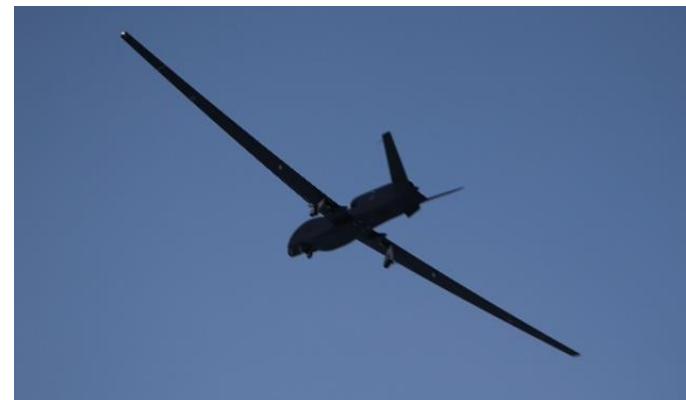
2 ウクライナとの防衛協力・交流

3 地域との交流・連携

4 女性自衛官の活躍

5 最近の主な組織改編等

6 航空自衛隊の気候変動への取組





1 30大綱期間中の航空自衛隊の取組



2022年3月 RQ-4Bの1機目及び2機目が納入



2022年12月 偵察航空隊を新編



宇宙作戦群及び宇宙作戦隊を新編

RQ-4Bの導入及び偵察航空隊新編

宇宙領域専門部隊の整備

2021年7月 F-2福江空港への展開
(長崎県五島市防災訓練)

2021年11月 F-15岡山空港への展開
(岡山県災害情報伝達訓練)

2022年12月ブルーインパルス
宮古空港への展開
(宮古島分屯基地開庁50周年行事)

2022年12月 T-4等
種子島空港への展開
(中種子町防災訓練)



民間飛行場の活用



JSMの継続的な取得



12SSM能力向上型(開発)着手

スタンド・オフ・ミサイルの導入

KC-46Aの導入及び第405飛行隊新設



空中給油・輸送機の着実な整備



2 ウクライナとの防衛協力・交流



ウクライナへ提供する装備品等の輸送

装備品等の搭載



離陸の様子

➤ウクライナ政府からの要請を受け、防衛大臣の命令に基づき、装備品等を輸送機等により輸送

ウクライナ被災民救援国際平和協力業務

見送りの様子



離陸の様子

➤国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) からドバイ (アラブ首長国連邦) にある UNHCR の倉庫に備蓄された人道救援物資をウクライナ周辺国 (ポーランド共和国及びルーマニア) に輸送してほしいとの要請により、航空支援集団のもとにウクライナ被災民救援空輸隊等を編成
➤C-2輸送機等により、2022年5月上旬から6月末まで人道救援物資の輸送を実施 (合計8便)



3 地域との交流・連携



宮古島分屯基地開庁50周年記念行事(2022年12月)



- 宮古島分屯基地開庁50周年記念行事に併せ、ブルーインパルスが宮古島において展示飛行を実施
- その際、**宮古空港**を利用

中種子町防災訓練(2022年12月)



- 中種子町が主催する種子島における防災訓練に参加
- 防災訓練への参加を通じて、**自治体等との連携体制を構築**し、相互の**災害対処能力向上**に寄与

高射部隊による機動展開訓練



- 弾道ミサイル対処に係る**戦術技量の向上**及び**自衛隊の即応態勢**を示すことで、**国民の安全・安心の醸成**に寄与

音楽隊による広報演奏



- 防衛省の式典、全国各地での**広報演奏**



4 女性自衛官の活躍



- 2015年11月、戦闘機等を含む航空自衛隊の全ての職種において、女性自衛官の配置制限を解除
- 本人の意欲・能力・適性に応じた幅広いフィールドで女性自衛官が活躍



操縦



宇宙



航空機整備



C-130Hの女性クルーでの運航



航空管制



兵器管制



空中輸送



衛生



音楽



武器弾薬

空女plus
空のまき方

Koku-Jieitai
Japan Air Self-Defense Force

Koku-Jieitai | 防衛省航空自衛隊
Japan Air Self-Defense Force

<http://www.mad.go.jp/asdf/>

女性自衛官等の活躍を紹介する
パンフレット「空女」(2023年度)



5 最近の主な組織改編等(1/2)



第53警戒隊与那国分遣班 配置



➤2022年4月、南西諸島方面におけるレーダーの覆域の補完のため、陸自与那国駐屯地に、第53警戒隊(宮古島)の分遣班として、与那国分遣班を新しく配置

立川分屯基地閉鎖



➤2023年3月、任務の効率化や隊務の最適化を図るため、首都圏に所在する部隊の再配置に伴い、航空安全管理隊は入間基地へ、航空中央音楽隊は府中基地へ移転し、立川分屯基地を閉鎖

第1宇宙作戦隊改編及び第2宇宙作戦隊新編



➤2023年3月、平時から有事までのあらゆる段階において宇宙利用の優位性を確保し得るよう宇宙作戦隊を第1宇宙作戦隊に改編するとともに防府北基地に第2宇宙作戦隊、府中基地に宇宙システム管理隊を新編

北部・中部・西部・南西各高射群の新編



➤2023年3月、高射部隊の効率的な運用を行うため、北部高射群、中部高射群、西部高射群及び南西高射群を新編



5 最近の主な組織改編等(2/2)



偵察航空隊新編



2022年12月 RQ-4B飛行前準備の様子



2022年12月 RQ-4B初飛行の様子



2023年1月 偵察航空隊編成完結記念式典の様子

- 2021年3月18日、三沢基地に、臨時偵察航空隊を新編
- 我が国から比較的離れた地域の情報収集及び事態が緊迫した際の空中での常続的な監視を実施し得るよう、2022年3月以降順次、RQ-4Bを三沢基地へ配備
- **2022年12月、偵察航空隊を新編し、RQ-4B初飛行**

航空自衛隊の気候変動への取組



- 航空自衛隊は、電動式の航空機けん引車によるけん引検証をT-4ブルーインパルス など9機種を使用して実施
- 順次各基地へ導入(予定)

- 2022年11月、岸田総理のカンボジア訪問に際し、CO2排出削減に寄与する※SAFを初めて使用
- 2023年 1月、岸田総理の欧州訪問に際し、2回目となるSAFを使用
- 2023年 5月、岸田総理のG7広島サミット出席に際し、3回目となるSAFを使用

※SAF : Sustainable Aviation Fuel(持続可能な航空燃料)

➤ その他、空自基地における再生可能エネルギー電力の調達、官用車の電動化等を推進



SMART JASDF



航空自衛隊

【HP】 <https://www.mod.go.jp/asdf/>

【Twitter】 https://twitter.com/JASDF_PAO

【Facebook】 <https://www.facebook.com/jasdf.pao/>

【Instagram】 https://instagram.com/jasdf_pao

【YouTube】 <https://www.youtube.com/user/JASDFchannel>